令和３年度

事業報告書

社会福祉法人　ゆたか会

目　　次

１．はじめに　・・・　１

２．法人本部　・・・　２

・法人本部（経営推進課）

・介護人材育成事業

３．障害者施設支援部　・・・　８

・希望の郷（施設入所支援・生活介護・短期入所・日中一時支援）

４．相談支援部　・・・１３

・加西市基幹相談支援センターやすらぎ

・はんど（計画相談支援・障害児相談支援・自立生活援助事業）

・ひょうご発達障害者支援センター加西ブランチ

・障害者等相談支援コーディネート事業

５．児童支援部　・・・３２

・加西市障がい児タイムケア事業

・発達障害支援事業所なゆた

６．介護保険部　・・・３７

・小規模多機能型居宅介護どっこいしょ

・加西市第２層生活支援コーディネート事業

７．通所系支援部　・・・５８

・多機能型事業所ＴＨＲＥＥ－Ｐ

（就労継続支援Ｂ型事業・自立訓練（生活訓練）事業）

８．共同生活支援部　・・・６２

・共同生活援助大空（大空・なごみ・くつろぎ）

・生活介護輝き

１．はじめに

令和３年度は、中期経営戦略（第２次）の初年度ということもあり、各事業所で新たな目標を設定して事業を実施していく年度となった。これからの３か年の計画を進めていくにあたっては、その基礎となる年度でもあったのではないかと思う。

ただ、コロナ禍ということもあり、当初考えていた目標通りに事業を進めることができなかったこともあった。

特に共同生活援助部では、共同生活援助事業所大空において、２月のほぼ同時期に利用者５名・職員９名が新型コロナウィルスに感染するという事態があり、生活介護事業所輝きの通所者の受け入れができない状況になってしまった。他の事業所においても、職員が感染してしまったり、濃厚接触者になってしまうといったこともあり、利用者対応に影響が出てしまうということもあった。

しかし、上記のような厳しい状況の中であったにも関わらず、法人全体の事業運営については昨年度を上回る実績を上げることができたことは評価できるのではないかと思う。

また、特筆すべき取り組みとしては、これまでの法人の基本理念・職員倫理綱領を見直し、新たな法人理念・職員倫理を作成したうえで、全職員を対象にした研修を実施したことがあげられる。これにより、今後はこの新しい理念・倫理に基づいて、それぞれの職員が行動するとともに、利用者支援においてもこれを遵守しながら支援にあたることとなる。

次年度に向けては、これまで同様、法人全体としてゆたか会に所属する職員が、やりがいをもって働ける環境を作っていくということに引き続き取り組んでいく必要があると考えている。特に、喫緊の課題である人材確保と人材育成についてはこれまで以上に力を入れて取り組んでいくこととしたい。

このような取り組みを地道に進めていくことにより、全職員が社会福祉法人ゆたか会の一員であるということを常に意識しながら日々の業務にあたっていけるようになっていくのではないかと感じている。

部署名：法人本部

①地域貢献の視点			
重点課題	**地元・地域との交流事業の推進**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・「ふれあい祭り」は令和２年度に引き続き、令和３年度もコロナウイルス感染症のため中止となった。		
次年度に向けて	・コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、実施の可否を早期に判断し、実施する場合は感染対策を充分に行う。		

②財務の視点			
重点課題	**資金収支計画の策定**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・資金収支状況は管理者会議で毎月報告した。また、請求ベースではあるが、予算対比、前月対比、昨年対比の一覧表を作成し、月々の収入の変化を検証することができた。 ・会計指標について、書式は完成したが全国の社会福祉法人の標準値を手に入れることができなかったので作成中ではある。予算ヒヤリングを各事業所において実施した。		
次年度に向けて	・資金収支状況については、引き続き管理者会議で毎月報告する。 ・各事業所が自身で収入状況の分析ができるよう指導していく。 ・会計指標は標準値を入手し完成させる。		
重点課題	**広報活動の実施**	**事業判定**	**見直し**
実施状況	・既存のホームページの見直しを行うことができなかった。また、採用に特化したホームページの作成については費用対効果の面で導入できていない。		
次年度に向けて	・現在の採用活動はＷＥＢでの活動が中心であり、紙媒体の広告は閲覧されない傾向にあることから、当会も動画配信等を中心に法人のアピールを行う。 ・職員募集についても、採用専用のホームページを作成し、既存ホームページとリンクすることで費用を抑えながら効果的な広報活動を実施する。		
重点課題	**法人の事業継続計画（ＢＣＰ）の作成**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・各事業所で防災計画は策定されている。法人本部の事業継続計画はたたき台を経営推進課内で作成したが、本格的に検討を行っていない。		
次年度に向けて	・当会はグループホームを含め加西市内に９拠点の事業所があることから、各事業所での初期対応としての防災マニュアルはそれぞれに策定されている。 ・各事業所の防災マニュアルを統括する法人本部としての事業継続計画（ＢＣＰ）を策定し法人本部の方針を定め、その方針に従って各事業所の防災マニュアルを修正する必要があることから、事業継続計画策定委員会を組織して今年度中に法人本部のＢＣＰ及び各事業所の防災マニュアルを整備する。		

③顧客の視点			
重点課題	**法人内事業所の事業連携によるサービスの向上**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・管理者会議を毎月定期に開催することができた。コロナウイルス感染症の蔓延時にはＷＥＢにて会議をすることができた。 ・事業計画策定時や中期経営戦略の進捗状況確認時には各事業所とヒヤリングを行い、事業の進捗状況や課題について共有することができた。		
次年度に向けて	・引き続き毎月定期に管理者会議を実施するとともに、事業計画策定時や中期経営戦略の進捗状況確認時、予算策定時などに各事業所とヒヤリングを実施する。		
重点課題	**権利擁護意識の向上**	**事業判定**	**見直し**
実施状況	・管理者会議等で各事業所の取り組みを共有している。 ・法人理念及び職員倫理を見直し、全職員に対して研修を実施することができた。		
次年度に向けて	・権利擁護意識だけでなく、倫理意識の向上、あらゆる差別やハラスメントの禁止を推進していくことが法人としての社会的責務であることから、それらに繋がる職員研修を研修委員会と連携して実施する。		
重点課題	**ＳＤＧｓを取り入れた経営の実践に向けた研究**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・ＳＤＧｓについての研修がないことから、独学によって理解を深めることとした。その結果、無理のない範囲でできることを行うこと、現在の事業でもできていることがあることが分かった。		
次年度に向けて	・法人がＳＤＧｓに寄与できること、できていることを精査し、成果物にまとめる。		

④業務プロセスの視点			
重点課題	**組織内交流事業の実施**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・研修委員会及び虐待防止委員会を組織し、各事業所での情報交換を円滑に行った。		
次年度に向けて	・各事業所間を横断する委員会を策定し、各事業所の職員の意見と法人方針をすり合わせて事業を展開する。		
重点課題	**施設整備計画の実施**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・希望の郷の外壁改修について見積もりを取得した。		
次年度に向けて	・希望の郷の改修検討委員会を組織し、国庫補助の取得を前提に、全面改修、改築などハード面での回収だけでなく、事業規模や新規事業の実施などあらゆる方向で検討する。 どっこいしょについても日本財団の改修補助金の取得を前提に改修を進める。		

重点課題	**第３次中期経営戦略の策定**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・第３次中期経営戦略の策定に向けて、第２次中期経営戦略の中間見直しを実施した。		
次年度に向けて	・第３次中期経営戦略の策定に向けて、第２次中期経営戦略の評価、見直しを実施する。		
重点課題	**人事・採用計画の策定**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・予算時に各事業所でヒヤリングを行い、人材の過不足についても聞き取りを行った。		
次年度に向けて	・人材確保は非常に困難な状況下にあり、自己募集、人材紹介、人材派遣のいずれも応募が非常に少ない状況にあることから、人材確保委員会を組織し、採用する人材、募集方法等を検討し、法人の魅力を就職活動者に伝え、応募者を増やす。		
重点課題	**職員の事業計画及び報告の説明会の実施**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・事業計画の説明を辞令交付式とともに実施した。		
次年度に向けて	・引き続き事業計画の説明会を実施する。 ・予算や決算を職員に伝える方法を検討する。		
重点課題	**外国人労働者（技能実習生）の受け入れ**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・特定技能実習生を１名受け入れた。		
次年度に向けて	・人材確保が困難であることから、外国人労働者の受け入れを引き続き検討する。 ・世界の情勢やコロナウイルスの状況から外国人労働者の受け入れも困難になっていることから、多国籍の受け入れも検討する。		
重点課題	**理事運営会議の強化**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・理事運営会議を毎月定期に開催した。		
次年度に向けて	・引き続き理事運営会議を毎月定期に開催する。		
重点課題	**計画的な障害者雇用の実施**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・法定障害者雇用率（2.3%以上）は2.5%を超えている。		
次年度に向けて	・引き続き法定雇用率を上回る障害者雇用を行う。		

重点課題	**国保連請求事務を各事業所へ移管**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・希望の郷の国保連請求事務を移管した。		
次年度に向けて	・希望の郷の国保連請求担当者が交代したことから、サポートを継続する。 ・大空、輝きについては引き続き経営推進課で実施し、移管に向けて調整する。		
重点課題	**理事会等の定期開催**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・理事会は３ヶ月に一回開催することができた。 ・評議員会は定時評議員会のほか、臨時評議員会を開催した。（別表参照）		
次年度に向けて	・３ヶ月に一回の理事会開催を行う。 ・評議員会は定時評議員会のほか必要であれば臨時評議員会を開催する。		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	**職員教育制度の確立**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・研修員会を組織し、職員研修を実施した。 ・キャリアパスに係る研修については、研修体系を作成したが、具体的研修の項目が策定できていない。		
次年度に向けて	・キャリアパスに係る研修について、研修体系を早急に完成させ、研修体系に沿って職員研修を実施する。		
重点課題	**法人運営を担う職員の育成**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・実施検討はできていない。		
次年度に向けて	・法人の収支及び方針を鑑みながら調整する。		

令和3年度 会議開催実績

監事監査

回数	日時	議題	備考
	令和3年5月24日 10:00～12:00	令和2年度事業監査 令和2年度会計監査	

理事会

回数	日時	議題	備考
第106回	令和3年6月8日 18:30～19:30	【議決事項】 第1号議案　令和2年度事業報告について 第2号議案　令和2年度決算報告について 第3号議案　理事選任(案)について 第4号議案　監事選任(案)について 第5号議案　評議員選任候補者の推薦について 第6号議案　第32回評議員会の開催について 【報告事項】 第1号報告　理事長業務執行事項について 第2号報告　業務執行理事業務執行事項について	 評議員会へ議題提出 評議員会へ議題提出 評議員会へ議題提出 評議員専任・解任委員会へ推薦
第107回	令和3年6月24日 19:55～20:15	【議決事項】 第1号議案　理事長選任について 第2号議案　業務執行理事選任について 第3号議案　評議員選任・解任委員選任について 第4号議案　第三者委員選任について	
第108回	令和3年9月8日 18:25～19:00	【議決事項】 第1号議案　第一次補正予算について 第2号議案　虐待防止委員会規程の制定について 第3号議案　理事改選(案)について 第4号議案　第33回評議員会の開催について 【報告事項】 第1号報告　理事長業務執行事項について 第2号報告　業務執行理事業務執行事項について	 評議員会へ議題提出
第109回	令和4年1月19日 18:25～19:10	【議決事項】 第1号議案　文書管理規程の制定について 第2号議案　障害者支援施設希望の郷運営規程の改正について 第3号議案　短期入所事業所希望の郷運営規程の改正について 第4号議案　財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援業務について 【報告事項】 第1号報告　希望の郷事業実地指導について 第2号報告　希望の郷の改修検討について 第3号報告　理事長業務執行事項について 第4号報告　業務執行理事業務執行事項について	
第110回	令和4年3月15日 18:30～20:15	【議決事項】 第1号議案　就業規程の改正について 第2号議案　契約職員就業規程の改正について 第3号議案　パート職員就業規程の改正について 第4号議案　給与規程の改正について 第5号議案　経理規程の改正について 第6号議案　障害者支援施設希望の郷運営規程の改正について	

回数	日時	議題	備考
第110回	令和4年3月15日 18:30～20:15	第7号議案　短期入所事業所希望の郷運営規程の改正について 第8号議案　多機能型事業所THREE－P運営規程の改正について 第9号議案　共同生活援助大空運営規程の改正について 第10号議案 生活介護事業所輝き運営規程の改正について 第11号議案 児童発達支援なゆた運営規程の改正について 第12号議案 はんど運営規程の改正について 第13号議案 はんど自立生活援助事業運営規程の改正について 第14号議案 小規模多機能型居宅介護事業所どっこいしょ運営規程の改正について 第15号議案 ハラスメント防止対策に関する基本方針の制定について 第16号議案 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定について 第17号議案 令和3年度第二次補正予算について 第18号議案 令和4年度事業計画について 第19号議案 令和4年度収支予算について 第20号議案 人事異動(部長職以上)について 【報告事項】 第1号報告　理事長業務執行事項について 第2号報告　業務執行理事業務執行事項について	

評議員会

回数	日程	予定議題	備考
第32回	令和3年6月24日 19:00～19:40	【議決事項】 第1号議案　令和2年度決算報告について 第2号議案　理事選任について 第3号議案　監事選任について 【報告事項】 第1号報告　令和2年度事業報告について	定時評議員会
第33回	令和3年9月29日 18:30～19:00	【議決事項】 第1号議案　理事の改選について 【報告事項】 第1号報告　理事長業務執行事項について 第2号報告　業務執行理事業務執行事項について	臨時評議員会

評議員選任・解任委員会

回数	日程	予定議題	備考
第2回	令和3年6月14日 13:30～13:50	評議員の選任について	

部署名：障害者施設支援部

<table>
<tr><th colspan="4">①地域貢献の視点</th></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>事業の推進
（祭りの開催や、モンファボリの運営による地域との交流、活性化）</td><td>事業判定</td><td>継続</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="3">・コロナ感染拡大につき地域行事が中止となり、祭りの開催はできず施設内での行事に変更して行った。
・モンファボリにおいても、感染のこともありイベントはできず。また職員の退職や休職により、一時的に営業を縮小したことで減収となった。（昨年度比▲１５０万円）
<table>
<tr><th></th><th>令和２年度</th><th>令和３年度</th><th>差</th><th>前年比（%）</th></tr>
<tr><td>購入者数（人）</td><td>11,647</td><td>8,778</td><td>▲ 2,869</td><td>75.4</td></tr>
<tr><td>売上額（円）</td><td>6,103,769</td><td>4,600,208</td><td>▲ 1,503,561</td><td>75.4</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>次年度に向けて</td><td colspan="3">・地域の行事の実施状況を考慮し、イベントの実施をおこなう。
・祭りについては、法人として取り組むことも視野に入れ検討をする。</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>利用者（当事者）の社会活動へ参加推進</td><td>事業判定</td><td>継続</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="3">・駅舎の清掃を毎週実施した。清掃以外にも植栽、水やり、チラシ折りを駅舎工房と協力して行った。
・パン販売は、コロナ感染状況や職員退職、休職による理由から実施していない。
・福祉会館の清掃は、コロナ感染状況の影響もあり、５回しか実施できていない。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けて</td><td colspan="3">・引き続き駅舎工房と連携し、清掃活動を続ける。また感染状況をみながら、パン販売を再開する。
・駅舎清掃、会館清掃の動向を見直し、確実に実施できるようにする。</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>地域への協力</td><td>事業判定</td><td>継続</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="3">・地域行事参加については、行事が中止となったため参加できず。
・籾摺りは１１件の受入れ、売り上げ約１１３万円。（前年比▲４件、▲１０万円）高齢により栽培、稲刈りを地域の方へ委託したことによる。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けて</td><td colspan="3">・地域行事の実施状況の把握し、感染状況や対策の検討を行い参加できるようにする。
・引き続き籾摺りの実施を行う。</td></tr>
</table>

②財務の視点

重点課題	収入の安定 施設入所支援事業(定員５０名)	事業判定	継続

実施状況

・加算取得について、有資格者が令和３年度６名増えたことにより、令和３年度平均３４３人/月から平均４２６人/月に算定者数が増えたことで収入増に繋がっている。しかし、人員不足により職員配置できず算定できていない日もある。また入院者数も少なかったことから、利用率も前年比 1.9%向上した。

		令和２年度	令和３年度	差
施設入所	営業日数	365	365	0
	延利用人数	17,669	18,017	348
	利用率	96.8	98.7	1.9
	平均利用者数	48.4	49.4	1.0
重度障害者支援加算（Ⅱ）		4,110	5,106	996.0
		343	426	83.0

※重度障害者支援加算（Ⅱ）…上段は年間算定者数、下段は１日当たりの算定者数

次年度に向けて

・引き続き資格取得をおこない、適切な職員配置を行い安定した加算取得を目指す。
・運動等の活動の実施し心身の健康を保つ。

重点課題	収入の安定 生活介護事業（定員６０名）	事業判定	継続

実施状況

・入所者の入院が少なかったこと、通所利用者が増えたことにより利用率が前年比 4.1%向上し収入増に繋がった。

		令和２年度	令和３年度	差
生活介護	営業日数	269	269	0
	延利用人数	14,397	15,066	669
	利用率	89.2	93.3	4.1
	平均利用者数	53.5	56.0	2.5

次年度に向けて

・活動の充実を図り、ＳＮＳを通じて発信する。
・好印象を持ってもらえる応対を心がけ、接遇の向上を図る。
・新規加算を取得し、収入増を図る。

重点課題	収入の安定 短期入所事業（定員８名）	事業判定	継続

実施状況

・感染対策を行ない、可能な範囲で受入れを行った。
・家庭の事情（親の入院等）による長期受け入れの相談があり、柔軟に対応した。
・利用率、前年比 7.8%増加。

		令和２年度	令和３年度	差
短期入所	営業日数	365	365	0
	延利用人数	1,431	1,659	228
	利用率	49.0	56.8	7.8
	平均利用者数	3.9	4.5	0.6

次年度に向けて

・引き続き感染対策を行ない、受け入れを行っていく。
・緊急時のニーズに可能な限り応えていく。

<table>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">収入の安定
日中一時支援事業（定員４名）</td><td>事業判定</td><td>継続</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="4">・感染対策を行ない、可能な範囲で受入れを行った。
・利用率、前年比 2.0%増加。
<table><tr><td></td><td></td><td>令和２年度</td><td>令和３年度</td><td>差</td></tr><tr><td rowspan="4">日中一時</td><td>営業日数</td><td>365</td><td>365</td><td>0</td></tr><tr><td>延利用人数</td><td>470</td><td>499</td><td>29</td></tr><tr><td>利用率</td><td>32.2</td><td>34.2</td><td>2.0</td></tr><tr><td>平均利用者数</td><td>1.3</td><td>1.4</td><td>0.1</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>次年度に向けて</td><td colspan="4">・平日利用の促進、ニーズに柔軟に対応し利用率向上を図る。
・引き続き感染対策を行ない、受け入れを行っていく。</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">コストの削減</td><td>事業判定</td><td>継続</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="4">・平均時間外勤務１４４時間/月（１人あたり３．６時間）。職員欠員による代替や記録、研修、会議等による。
・時間外勤務については、業務量により個人差が大きいところがある。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けて</td><td colspan="4">・業務の整理、見直しを行い、時間外勤務を減らす。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">③顧客の視点</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">支援体制の強化
（質の高いサービスの提供）</td><td>事業判定</td><td>継続</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="4">・１２回の研修を行い、看取り支援（２回）や障害特性（２回）について学んだ。
・入院した利用者の把握不足があり、退院後の受け入れ態勢を整えることができなかった。
・運営会議の時間を使って個別対応について協議した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けて</td><td colspan="4">・高齢障害者の活動内容や身体機能の維持などの支援を強化していく。
・入院中の状況把握を行い、ケース検討を実施し退院後の受入れ体制を作る。
・高齢化等による本人の状況変化に対応できるよう、ケース検討を実施していく。</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">日中活動の充実、見直し</td><td>事業判定</td><td>継続</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="4">・北はりま障がい者美術公募展に絵画を出展し、奨励賞、佳作を受賞した。また福祉フェスタ（ＷＥＢ開催）にも出展した。
・農耕班での作業（野菜の収穫や種まき等）を作業班問わずに実施した。利用者から「また収穫したい」と積極的な声も挙がっていた。
・受注作業１件減となったが、新規作業１件受注した。多くの利用者が関わることができている。
・毎金曜日にサークル活動（ダンスや園芸、音楽等趣味的な活動）を試行した。ダンスや園芸、音楽は好評であった。
・コロナ感染がまん延している影響で、外出できていない。</td></tr>
</table>

次年度に向けて	・今後も作業班の垣根にとらわれず、横断的に活動を行っていく。 ・高齢化に伴い、体力の低下が予想される。運動を取り入れ、体力の維持・向上を図る。 ・サークル活動の充実と計画的に実施していく。		
重点課題	**生活支援の充実**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・居室清掃は、時間を設定することで定着してきている。 ・整容について、職員間の引継ぎが不十分なところもあり、実施できていないことがあった。 ・夜間（就寝前）までの過ごし方として、不定期ではあるが映画鑑賞を実施した。		
次年度に向けて	・引き続き居室清掃を徹底する。また実施時間を見直し効率化を進める。 ・職員間の引継ぎを徹底し、身だしなみを整えていく。 ・自由時間の過ごし方について、提案、試行を行う。		
重点課題	**関係機関、学校等への広報活動の強化**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・支援学校から実習２年生２名、３年生１名の３名を受け入れ、３年生は生活介護利用につながった。 ・実習受け入れに際して、事前に学校へ訪問し情報共有をおこなった。		
次年度に向けて	・学校と情報共有を行い、実習の受入れを行う。 ・オープンスクール等の学校行事に訪問を行う。		
重点課題	**ＳＮＳ等を活用した広報の充実**	**事業判定**	**続継**
実施状況	・インスタグラムの６０回更新をおこなう。週１回、タイムリーに更新する予定であったが、不定期な更新となってしまった。 ・１０月から家族向け広報誌「みどりの屋根の下」を毎月発刊し配布をおこなった。		
次年度に向けて	・タイムリーに更新できるよう、更新手順の見直しと周知徹底を図る。 ・広報誌の紙面の充実し、発刊を継続する。		

④業務プロセスの視点			
重点課題	**業務の見直し、効率化**	**事業判定**	**続継**
実施状況	・運営会議や各担当会議等で検討を実施した。 ・生活支援と日中活動の業務分担を明確にすることはできていないが、連携して行っている。 ・トランシーバーを導入し、業務（職員間の連絡）の円滑化を図った。		
次年度に向けて	・電子ソフト（アプリ）の活用を検討、導入をおこない、業務の効率化を進める。 ・各担当間の連携を強化し、効率的に業務に取り組む。		

重点課題	リスクマネージメントの強化	事業判定	継続
実施状況	・事故件数２５５件と昨年度比▲１６件であった。 ・ヒヤリハット２２件と少なかった。記録に挙がっていないことが推測される。 ・感染対策について、利用者向けに手洗いについて講義を実施した。 ・コロナ想定訓練２回実施。７月は利用者も含め実施。９月は感染者に対するケアを重点的に実施した。 ・防災訓練（地震想定）を加西市法人連携で行う予定であったが、コロナ感染状況から大幅に規模を縮小し希望の郷のみで実施した。 ・虐待防止研修、虐待防止チェックリストを実施（各２回)。		
次年度に向けて	・事故、ヒヤリハットの記録徹底を行う。 ・感染症対策委員会の設置と、コロナ感染を想定した訓練を行う。 ・災害想定訓練（地震、風水害）を実施する。また、法人内連携、市内法人連携についても検討を行う。 ・虐待防止について、引き続き研修の実施と定期的なセルフチェックを行う。		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	職員内部研修の実施	事業判定	続継
実施状況	・職場内研修を毎月実施した。 ・今後の研修内容の検討や研修の見返しのために、研修ごとに実施者が記録を残すようにしている。 ・支援会議で研修報告をする機会を設けた。		
次年度に向けて	・職場内研修を実施する。 ・実務研修実施に向けて調整する。		
重点課題	教育計画の実施と見直し	事業判定	続継
実施状況	・昨年度作成した教育計画に沿って新人教育の実施をした。６ヶ月において、プリセプターが個人に合わせた個別の教育計画を作成し、それに沿った教育を実施した。 ・全職員に向けてＯＪＴについて研修を実施し、意識づけを行った。しかし職員全体で、新人教育を行っていく意識はまだ低い。 ・記録の目的や書き方について、支援会議を通じて伝えた。		
次年度に向けて	・ＯＪＴ活性化に向けた取り組みの実施。 ・支援会議等を通じて、ＯＪＴを実施する。 ・職場内研修以外にも、経験年数に応じた研修を実施する。		

部署名：相談支援部

①地域貢献の視点			
重点課題	**新たな視点での提言ができる職員の育成**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・北播磨障がい福祉ネットワーク会議(発達障害支援部会)では、調査・研究事業の科学的根拠に基づき行政版サポートファイルを市町に推奨した。 ・北播磨障がい者福祉ネットワーク会議では、協議会の再編（加東健康福祉事務所の参画）について提言した。 ・加西市障害者自立支援協議会では、子ども支援連絡会の活動について提言した。また、ひきこもり支援研修会を実施し、ひきこもり支援における共通認識の獲得をした。		
次年度に向けて	・個別支援での課題を地域課題として捉え、連絡会や協議会運営会議等での検討を通して、解決方法の模索をし、誰もが暮らしやすいまちづくりにつなげていく。相談支援部代表者会議でも並行して議論し、必要に応じて、北播磨圏域及び県での検討を提言していく。		
重点課題	**年齢や障害の有無に関わらず相談対応する**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・アウトリーチ支援事業、生活保護適正化事業、圏域コーディネーター、発達障害者支援センター等を活用し、困り事の相談を受け止めた。他機関への調整が必要な場合には、本人や家族に付き添い、丁寧な引き継ぎを心がけた。		
次年度に向けて	・委託事業を活用しながら、困り事を抱えた方の相談を受け止め、課題の整理と解決方法の検討を行う。課題解決への支援と共に、個別の課題を地域課題として捉え、協議会等へ提言していく。		
重点課題	**主任相談支援専門員の配置**	**事業判定**	**見直し**
実施状況	・職員１名が研修に参加。７月より配置。法定研修の講師や圏域及び市内での研修企画や講師等を実施。年間２１回の研修に携わる。		
次年度に向けて	・「主任相談支援専門員の充実」と変更する。 ・現任研修修了者のステップアップの機会として、研修参加を調整する。		

②財務の視点

重点課題	委託費と給付費で事業運営する	事業判定	継続

実施状況

計画相談支援

請求月	件数	給付費
5月	57	962,201
6月	66	1,044,016
7月	59	933,373
8月	95	1,578,709
9月	61	1,048,151
10月	91	1,544,543
11月	82	1,474,998
12月	55	1,022,160
1月	64	1,225,970
2月	85	1,643,956
3月	56	1,035,394
4月	96	1,881,361
合計	861	15,394,832
平均	71.75	1,282,903

障害児相談支援

請求月	件数	給付費
5月	7	134,230
6月	20	364,790
7月	5	95,580
8月	20	357,760
9月	15	203,940
10月	10	213,190
11月	11	246,420
12月	9	195,730
1月	7	138,860
2月	14	279,890
3月	8	171,410
4月	13	284,980
合計	139	2,686,780
平均	11.58	223,898

自立生活援助

請求月	件数	給付費
5月	2	58,372
6月	2	48,192
7月	2	38,012
8月	2	43,102
9月	2	48,192
10月	2	48,192
11月	2	37,990
12月	2	45,625
1月	2	43,080
2月	2	43,080
3月	2	43,080
4月	2	43,080
合計	24	539,997
平均	2.00	45,000

次年度に向けて	・新規利用者の獲得及び適切なモニタリング回数の設定をして件数増を図る。委託費については、業務内容や業務量について委託先と協議をする機会をもつ。

重点課題	自立生活援助事業の開設	事業判定	見直し
実施状況	・利用者２名の支援を実施。定期訪問、通院等への同行を行う。利用者からは来年度の支援継続の希望があり、支援延長の手続きを行う。		
次年度に向けて	・「自立生活援助事業の充実」に変更する。 ・利用者４名の支援を予定。計画相談支援との連携を強化し、利用者のニーズに応じた適時の支援ができるよう努める。		

重点課題	計画相談での加算獲得徹底	事業判定	継続
実施状況	・計画相談支援において、年間件、月平均件の加算取得ができた。障害児計画相談支援において、年間件、月平均件の加算取得ができた。記録様式の簡素化を図り、事務処理の効率化を図ることができた。		
次年度に向けて	・今年度同様に訪問時には必ず記録作成して加算取得する。加算取得についての理解を深め、支援状況に応じた加算取得ができるようにする。		

③顧客の視点			
重点課題	**自立生活援助事業の活用**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・２名の利用者への在宅支援を実施した。それぞれの希望に合わせて、無理なく支援することで関係構築できた。関係機関とも連携し、本人の自立を支える一助となった。		
次年度に向けて	・計画相談支援事業及び関係機関との連携を図り、効率的計画的な関わりを継続する。 ・週１回程度の訪問の中で、利用者の状況把握と必要な支援を継続する。		
重点課題	**個別支援の充実**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・相談支援部代表者会議において、各部署の支援状況を把握した。複合的課題のあるケースは支援の方向性を示し、部内連携して対応できた。		
次年度に向けて	・毎日の業務報告の中から、課題のあるケースを取り上げ、代表者会議でもれなく共有できるような流れをつくる。		
重点課題	**幅広い相談内容に対応**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・一般相談、計画相談、委託事業等を活用し、相談者の困り事を整理し、課題解決に向けて取り組んだ。支援状況は代表者会議で共有し、地域ニーズの把握に努めた。		
次年度に向けて	・各部署、各事業における相談内容を整理し、地域ニーズの把握に努める。地域ニーズを法人サービスにいかしていく。		

④業務プロセスの視点			
重点課題	**業務整理（自立生活援助事業）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・計画相談支援と自立生活援助の役割を明確にして支援を行ったが、予想していたほどの効果は得られなかった。		
次年度に向けて	・計画相談支援の延長として支援体制を整えた方が効率的な支援ができると思われる。支援体制を修正し、効率的計画的な支援をしていく。		
重点課題	**業務整理（計画相談支援）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・はんど・やすらぎ間での役割分担等整理し、効率的な業務遂行を目指したが、やすらぎで新規の計画相談ができない上、はんどの受け入れも限界がきており、新規利用者は８名に留まった。		
次年度に向けて	・圏域コーディネーターが兼務になるため、はんどで新規利用者の受け入れができる見込みがある。先の見通しを立てながら、受け入れの判断をしていく。		
重点課題	**職員配置の検討**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・１１月に事業ヒヤリング実施。		
次年度に向けて	・はんど３名、やすらぎ６名、ブランチ２名の職員体制で事業実施する。ヒヤリング時に適正な職員配置について協議する。		

重点課題	時間外勤務の削減	事業判定	継続
実施状況	・定時勤務の励行、定時退社日の設定、計画的な業務遂行等、時間内での業務ができるよう努めた。月による増減はあるが、年度当初の３分の２程度に削減できた。		
次年度に向けて	・時間外勤務ありきの業務スタイルを改め、定められた勤務時間内でいかに業務遂行できるかについて、業務管理面の押し付けだけでなく、職員と共に導き出す。		
重点課題	困難ケースへの対応	事業判定	継続
実施状況	・複合的課題のあるケースについて、代表者会議で共有し、支援の方向性等検討した。地域福祉課とのケース共有の機会をもち、緊急時の対応への備えや地域課題として取り組む流れをつくることができた。		
次年度に向けて	・個別ケースの課題を地域課題として捉え、関係機関との共有や協議する機会をもつ。 ・各連絡会を通じ、自立支援協議会での検討事項や提言へと結び付けていく。		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	新たな視点での提言ができる職員の育成	事業判定	継続
実施状況	・部内研修会の中で、話の聞き方や捉え方、自分の中でのまとめ方、相手に伝わる話し方等の力をつけることを意識して、グループワーク等の機会をもった。様々な会議等、実践の中でいかしている。		
次年度に向けて	・相談支援に携わる者として必要な力が身につけられるよう、意図的な研修を企画する。 ・人事考課における自己啓発については、可能な範囲で発表の機会をもたせる。		
重点課題	外部研修の機会の確保	事業判定	継続
実施状況	・毎月１つ以上の外部研修に参加した。研修後は復命書作成後に部内会議の場で報告し、学びの共有と共に、研修内容をどのようにいかしていくか深めることができた。		
次年度に向けて	・今年度同様に研修の機会を確保する。相談支援に携わる者として必要な知識だけでなく、ソーシャルワーカーとしての技術を身につけていくことを目的に主体的な参加を促していく。		
重点課題	事業所内研修の実施	事業判定	継続
実施状況	・相談支援部として３回の研修を実施した。法人内からも参加できるよう告知し、共に学ぶ機会をもった。		
次年度に向けて	・今年度同様に３回の研修を企画する。相談支援の実践力向上を目指した研修にしながらも、法人内職員にも参加できる内容を検討する。		

令和３年度　加西市基幹相談支援センターやすらぎ　事業報告資料

１　相談件数について

１．委託相談支援事業

（１）相談件数の推移

相談件数（延件数）　（単位：件）

項目	件数							
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
件数	910	1,187	3,865	4,863	6,667	8,208	10,235	11,672
年度	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	
件数	13,442	11,835	11,575	10,157	11,953	14,212	11,235	

（２）相談実人数の内訳

実人数（新規・継続）　（単位：人）

	実人数	実人数の内訳							
		身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他
新規	50	3	0	8	16	9	2	1	11
継続	494	50	7	155	172	55	3	5	47
計	544	53	7	163	188	64	5	6	58

（３）相談方法別件数の推移

相談方法（延件数）　（単位：件）

項目	件　数											
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
訪問	413	511	706	1,200	1,521	1,697	1,391	1,382	1,173	1,414	1,398	1,037
来所相談	418	501	595	923	1,537	1,673	1,626	1,514	1,331	1,433	1,398	998
同行	55	61	90	117	166	350	393	406	403	444	504	575
電話相談	720	1,495	1,619	4,052	5,213	7,271	5,885	4,794	3,962	4,902	6,011	2,658
メール	162	207	262	356	782	679	952	854	843	845	1,330	831
FAX	0	0	0	36	47	45	35	12	24	26	35	3
支援会議	55	106	101	163	155	148	132	135	131	167	157	193
関係機関	2,739	3,670	4,802	3,357	2,225	1,538	1,352	2,429	2,200	2,661	3,323	4,938
その他	301	116	33	31	26	41	69	49	90	61	56	2
合計	4,863	6,667	8,208	10,235	11,672	13,442	11,835	11,575	10,157	11,953	14,212	11,235

（４）相談内容別件数（障害別）

相談内容（延件数）　　単位：件

項目	件数								
	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他	合計
在宅サービス	51	4	100	152	6	8	0	0	321
施設入所	0	0	5	7	0	10	0	0	22
日中活動	16	8	104	41	98	1	2	17	287
就労	139	0	759	783	112	4	2	127	1,926
医療	18	9	294	447	38	14	2	13	853
不安の解消	7	0	322	662	13	8	0	198	1,210
保育・教育	8	0	52	2	41	0	0	21	124
年金・保険	14	0	72	108	3	21	3	4	225
人権擁護	1	0	79	38	0	0	0	6	124
財産	11	0	81	51	0	1	0	3	147
社参・余暇	19	0	46	78	31	1	0	5	180
介護・住宅	7	0	15	5	0	0	0	0	27
諸制度	65	3	202	242	31	22	2	24	591
家族･人間関係	8	0	72	121	16	1	0	24	242
連絡調整	366	63	913	1,903	288	76	22	282	3,913
生活保護	6	0	20	16	0	2	0	29	73
手話・要約	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	37	0	88	136	12	6	1	17	297
計画相談	79	37	246	251	48	6	2	22	691
合計	852	124	3,470	5,043	737	181	36	792	11,235

２　地域ネットワーク及び啓発事業について

（１）　地域ネットワーク構築

①加西市内におけるネットワーク

ｉ）加西市障害者自立支援協議会

実施年月日	検討内容
R3.5.21	【運営会議】 令和２年度の全体会議の振り返り、各連絡会及びプロジェクトの報告等、今年度の取り組み
R3.10.15	【運営会議】 各連絡会及びプロジェクトより活動報告、現状の評価及び意見交換
R4.2.8	【運営会議】 各連絡会及びプロジェクトより活動報告、全体会議について
R4.3.19	【全体会議】 令和３年度加西市障害者自立支援協議会の取り組み等報告、トークショー

ⅱ）相談支援連絡会

実施年月日	内容
R3.4.21	進捗状況確認、連絡会の取り組みについて、その他意見交換、情報交換
R3.5.26	防災と福祉の連携による個別支援計画作成促進事業、進捗状況確認、意見交換他
R3.6.23	進捗状況確認、意見交換、情報交換他、「高齢・障害者支援について」の勉強会について
R3.7.28	進捗状況確認、意見交換、情報交換他
R3.8.25	進捗状況確認、意見交換、情報交換他、個別サポート加算について
R3.9.29	進捗状況確認、意見交換、情報交換他、事例検討会の実施について
R3.10.27	進捗状況確認、意見交換、情報交換他
R3.11.30	進捗状況確認、意見交換、情報交換他、日月の紹介、勉強会について
R4.1.26	進捗状況確認、意見交換、情報交換他、勉強会振り返り
R4.2.16	進捗状況確認、意見交換、情報交換他
R4.3.17	進捗状況確認、意見交換、情報交換他

ⅲ）高齢・障がい者支援連絡会

実施年月日	内容
R3.4.28	連絡会の主旨や目的の再確認、各担当課からのケース報告・連絡等、勉強会について
R3.5.24	災害時の要援護者について、各担当課からのケース報告・連絡等
R3.6.11	高齢・障害者支援についてのプレ研修、各機関からのケース報告・連絡等
R3.7.30	各機関からのケース報告・連絡等、高齢・障害者支援についての勉強会について
R3.8.27	各機関からのケース報告・連絡等、高齢・障害者支援についての勉強会について
R3.9.24	勉強会「高齢・障害者支援の制度理解と移行における連携について」
R3.10.20	各機関からのケース報告・連絡等。勉強会の振り返り
R3.11.26	ケースの共有と課題の確認、各機関からの連絡・情報共有、次回勉強会について
R3.12.20	勉強会「高齢・障害者支援の制度理解と移行における連携について」
R4.1.28	ケースの共有と課題の確認、各機関からの連絡・情報共有、勉強会の振り返り
R4.2.25	ケースの共有と課題の確認、各機関からの連絡・情報共有、来年度の連絡会について
R4.3.25	ケースの共有と課題の確認、各機関からの連絡・情報共有、来年度の連絡会について

ⅳ）あんしん暮らし支援連絡会

実施年月日	内容
R3.9.29	連絡会の目的について、空き状況の確認、地域生活支援拠点の整備について
R3.12.17	実態調査アンケート結果、地域生活支援拠点の整備について、各事業所の状況共有
R4.2.4	地域生活支援拠点の整備について、各事業所の状況共有

ⅴ）ひきこもり支援連絡会（すまいるリンクネットワーク連絡会）

実施年月日	内容
R3.5.12	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.6.16	会議の主旨確認、各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.7.14	会議の主旨確認、各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.8.18	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.10.15	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.11.12	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.11.15	ひきこもり支援研修会
R3.12.16	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R4.1.19	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R4.2.15	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R4.3.16	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等

ⅵ）加西市中高連携支援連絡会

実施年月日	内容
R3.12.16	各校の現状について。現状の課題について意見交換、情報交換。

ⅶ）就労支援連絡会

実施年月日	内容
R3.4.21	【勉強会】事業所間の連携を意識した利用者支援について
R3.6.16	【勉強会】支援学校の実習受け入れについて
R3.7.20	近況等報告、情報共有、今後の取り組み、６５歳以上の方の支援について
R3.8.18	【勉強会】各事業所でのコロナ対策について
R3.10.13	鶉野未来課からの提案（防空壕内ヘルメット受け渡し作業）、高齢障害者への支援について
R3.10.20	【勉強会】高齢障害者への支援について、事例共有
R4.1.24	ハローワーク西脇から就労支援における地域との連携について、高齢障害者支援について
R4.2.16	【勉強会】事業所間の連携について

ⅷ）子ども支援検討会

実施年月日	内容
R3.9.21	会議の主旨等確認、支援状況及び課題について、トライアングルプロジェクト
R4.1.24	支援状況及び課題について、課題への取り組み

ⅸ）加西市障害者就業・生活支援ネットワーク会議

実施年月日	検討内容
R3.11.18	事例報告、グループディスカッション、グループ発表、意見交換

x）加西市特別支援教育コーディネーター・ネットワーク会議

実施年月日	検討内容
R4.2.28	各参加機関の事業等説明、トライアングルプロジェクトの説明等

xi）みんなの福祉フェスタ実行委員会

※コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

②北播磨圏域におけるネットワーク

ⅰ）北播磨障がい福祉ネットワーク会議

実施年月日	検討内容
R3.6.28	【全体会議】 事業報告、医療的ケア児等コーディネーターの配置について
R4.3.15	【全体会議】 各部会の実績報告について、加東健康福祉事務所の参画について

ⅱ）相談支援部会

実施年月日	検討内容
R3.4.13	今年度の事業内容について
R3.6.8	医療的ケア児支援部会について、全体会について。
R3.10.12	医療的ケア児支援部会について、学習会「障害基礎年金」
R3.12.14	医療的ケア児支援部会について、学習会「ひきこもり」
R4.2.8	医療的ケア児支援部会について、全体会について、学習会「地域生活支援拠点」

ⅲ）就労支援部会

実施年月日	検討内容
R3.6.29	労働行政の状況、支援機関の情報交換、制度の情報提供、就労系アセスメントについて等
R4.1.25	労働行政の状況、支援機関の情報交換、制度の情報提供、就労系アセスメントについて等

ⅳ）発達支援部会

実施年月日	検討内容
R3.10.7	令和２年度アンケート結果報告 実践発表「切れ目のない支援体制の構築～行政版サポートファイルの調査研究より～」 グループ討議「サポートファイルの有効性と課題について」

（２） 啓発事業

①社会参加支援事業の実施

実施年月日	事業名	内容	対　象	参加者
R3.12.18	余暇活動	映画鑑賞会	就職者	13 人

②イオンイベント

※コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止

③講演会等

実施年月日	研修名	内容	対　象	参加者
R4.1.13	兵家連メンタルヘルスセミナー	事例発表	家族、支援者	50 人

令和３年度　加西市基幹相談支援センターやすらぎ　事業報告資料
（生活困窮者就労準備支援等事業及び生活保護適正化等事業）

１．生活困窮者就労準備支援等事業及び生活保護適正化等事業

（１）相談件数の推移

令和２年度から契約内容の変更があり、対象者の選定を行った。月２５件の対応をすることになっている。相談件数の変化は、それに伴うものと思われる。

相談件数（延件数）　（単位：件）

項目	件数				
年度	H29	H30	H31	R2	R3
件数	914	1,689	1,837	696	652

（２）相談実人数の内訳

実人数（新規・継続）　（単位：人）

項目	実人数	実人数の内訳							
		身体障害	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他
新規	21	1	0	0	1	0	0	0	19
継続	84	3	0	6	23	2	0	1	49
計	105	4	0	6	24	2	0	1	68

（３）相談方法別件数の推移

相談方法（延件数）　（単位：件）

項目	件数				
	H29 年度	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度
訪問	229	366	541	219	182
来所相談	48	142	98	52	44
同行	36	50	67	24	56
電話相談	241	426	719	124	59
電子メール	201	411	136	35	5
FAX	0	4	6	0	0
個別支援会議	10	14	15	13	4
関係機関	134	259	238	227	302
その他	15	17	17	2	0
合計	914	1,689	1,837	696	652

（４）相談内容別件数（障害別）

相談内容（延件数）　（単位：件）

項目	件数								
	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳	難病等	その他	合計
在宅サービス	0	0	2	0	0	0	0	0	2
施設入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日中活動	0	0	0	0	0	0	0	1	1
就労	1	0	33	15	5	0	0	15	69
医療	0	0	3	6	1	0	0	1	11
不安の解消	0	0	2	4	0	0	0	1	7
保育・教育	0	0	0	0	0	0	0	0	0
年金・保険	0	0	3	3	0	0	0	0	6
人権擁護	0	0	0	0	0	0	0	0	0
財産	0	0	4	0	0	0	0	0	4
社参・余暇	0	0	75	17	9	0	0	55	156
介護・住宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0
諸制度	0	0	0	1	1	0	0	1	3
家族・人間関係	0	0	4	0	0	0	0	11	15
連絡調整	2	0	49	43	13	0	0	95	202
生活保護	7	0	9	41	0	0	4	110	171
手話・要約	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	3	0	0	0	2	5
計画相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	0	184	133	28	0	4	291	652

（５）地域ネットワーク構築

①加西市内におけるネットワーク

ｉ）加西市障害者自立支援協議会

実施年月日	検討内容
R3.5.21	【運営会議】 令和２年度の全体会議の振り返り、各連絡会及びプロジェクトの報告等、今年度の取り組み
R3.10.15	【運営会議】 各連絡会及びプロジェクトより活動報告、現状の評価及び意見交換
R4.2.8	【運営会議】 各連絡会及びプロジェクトより活動報告、全体会議について
R4.3.19	【全体会議】 令和３年度加西市障害者自立支援協議会の取り組み等報告・トークショー

ⅱ）ひきこもり支援連絡会（すまいるリンクネットワーク連絡会）

実施年月日	内容
R3.5.12	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.6.16	会議の主旨確認、各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.7.14	会議の主旨確認、各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.8.18	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.10.15	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.11.12	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R3.11.15	ひきこもり支援研修会
R3.12.16	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R4.1.19	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R4.2.15	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等
R4.3.16	各担当課からのケース報告・連絡、情報共有、意見交換等

ⅲ）就労支援連絡会

実施年月日	内容
R3.4.21	【勉強会】事業所間の連携を意識した利用者支援について
R3.6.16	【勉強会】支援学校の実習受け入れについて
R3.7.20	近況等報告、情報共有、今後の取り組み、６５歳以上の方の支援について
R3.8.18	【勉強会】各事業所でのコロナ対策について
R3.10.13	鶉野未来課からの提案（防空壕内ヘルメット受け渡し作業）、高齢障害者への支援について
R3.10.20	【勉強会】高齢障害者への支援について、事例共有
R4.1.24	ハローワーク西脇から就労支援における地域との連携について、高齢障害者支援について
R4.2.16	【勉強会】事業所間の連携について

②北播磨圏域におけるネットワーク

ⅰ）発達支援部会

実施年月日	検討内容
R3.10.7	令和２年度アンケート結果報告。 実践発表「切れ目のない支援体制の構築～行政版サポートファイルの調査研究より～」 グループ討議「サポートファイルの有効性と課題について」

③研修講師

実施年月日	研修名	内容	対　象	参加者
R4.1.13	兵家連メンタルヘルスセミナー	事例発表	家族、支援者	50 人

令和３年度　はんど（指定特定相談支援事業所はんど）　事業報告書

１．全体状況

引き続き、コロナ禍にあり、感染対策を取りながら相談支援事業を継続しているところである。昨年度と比較すると、概ね対面での相談が可能となりつつあるが、感染拡大の状況によっては、対面での相談を控えたいとの申し出を受けることもあり、電話対応や郵送対応など、工夫しながら業務を行ってきた。

また、事業所訪問においては、特に入所施設では訪問に制限がある場合もあり、直接利用者の状況を確認しづらい状況も引き続きあった。

職員体制においては年度途中から減員の状態となり、実質的には現在受け持つケースに対応することが精一杯の状況で、新規ケースの相談はあるものの、依頼を受けることは困難な状況であった。

２．重点目標に対する取り組み

（１）計画相談支援・障害児相談支援

（実件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
18歳以上	42	40	49	56	39	60	47	35	48	56	42	63
18歳未満	12	9	10	11	8	7	7	7	8	8	8	7

※サービス提供時モニタリング・集中支援加算等も含む

・新規　　６件（再開を含む）
・終結　１１件（本人の死去・他事業所へ引継ぎ・更新なし等による）
・対象となる加算について、必要な記録を作成し加算取得に努めたが、コロナ禍で事業所訪問に制限がある場合もあり、サービス提供時モニタリング加算等については算定しづらい状況もあった。

（２）本人中心支援・多機関連携

個別の状況を勘案し、標準期間一律ではなく、必要に応じたモニタリング期間を設定し、支援の質の向上に努めた。

サービス利用支援だけでなく、継続サービス利用支援においても、本人を中心としたサービス担当者会議を積極的に実施している。それ以外にも状況に応じて必要時、関係者会議を開催する等、多機関連携における調整機能を担っている。

計画作成以外の基本相談にも丁寧に対応している。基本相談の内容は、成年後見制度に関すること・年金に関すること・家計や金銭管理に関すること・生活状況の把握・不安の軽減・受診支援・家族支援・高齢障害家庭の支援・介護保険に関すること・諸制度に関すること等、多岐に渡っている。

基本相談の延件数は以下の通りとなっている。

（延件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
18歳以上	473	462	537	496	473	439	441	509	377	387	425	457
18歳未満	38	29	50	137	74	122	55	98	70	57	42	57

（３）相談支援機能の強化

日頃から、対応困難ケースや虐待疑いケースなどに対し、アンテナを高く張っておくことを意識し、日々の朝礼や所内会議等において共有し、必要に応じて代表者会議にて報告、検討した。

複合的な課題を有するケースも多く、基幹相談支援センターやすらぎと状況を共有しながら、必要に応じて連携を図ってきた。また介護保険と併用するケースも増えてきており、地域包括支援センターやケアマネージャーとの連携も増えた。指定特定事業所として、教育機関や子育て機関との連携は課題と感じている。

相談支援の特性上、担当者一人で抱え込みがちとなるため、ケース検討の機会は必要と考えており、次年度の取り組みに活かしたい。

・加西市相談支援連絡会（月１回定例開催）　１２回
・高齢障がい者支援連絡会　１回
・あんしん暮らし連絡会　２回
・こども支援検討会　２回
・発達障害者支援部会　１回
・すまいるりんく連絡会　２回

（４）自立生活援助事業

令和３年度は２名の方を対象に実施した。事業開始初年度ということもあり、また県内で実施している事業所も少ない中、手探りではあったが、本人の生活や価値観、本人のペースを大切にしながら関わりを継続し、個別支援計画に沿って段階的に支援していくことができた。

計画相談支援と組み合わせて包括的な支援を目標としており、計画相談支援担当者と状況を共有しながら進めていくことができたが、別建ての個別支援となった面もあり、運営方法については、次年度の課題とする。

令和３年度　ひょうご発達障害者支援センター加西ブランチ　事業報告

Ⅰ 重点的取り組みに対する総括

１　市町の発達支援体制整備に向けた取り組み

平成１９年度から、早期からの切れ目のない支援体制の構築にむけたサポートファイル事業が県下で展開されているが、加西ブランチが担当する北播磨・丹波圏域の７市１町においては、三木市と小野市のみが保護者が管理作成する「保護者版サポートファイル(通称：さぽーとノート)」を採用し、残りの５市１町は、行政や学校園が管理作成する「行政版サポートファイル」を採用している。この約１５年間のサポートファイル事業の経緯として、保護者版サポートファイルから行政版サポートファイルに切り替える市町が続いている。その最大の要因は、保護者版サポートファイルを継続的に活用できる保護者は１割も満たないためである。そのため、今年度は、北播磨障がい福祉ネットワーク会議発達障害支援部会において、「ライフステージを通した縦横連携の在り方」をテーマに、サポートファイル事業について再考する機会とした。

前半の実践発表では、平成３１年度にクローバー加西ブランチが実施した調査・研究の結果を基に、「行政版サポートファイルの有用性と課題」について報告した。行政版サポートファイルに関する本調査研究は、全国で初の取り組みであり、調査結果からは、保護者と支援者の両者から行政版サポートファイルの有用性の高さが示され、エビデンスが確認されたことを報告した。後半のグループ討議では、行政版サポートファイルを運用する市町からは、より効果的に運用・作成するための課題について議論を深める機会となった。保護者版サポートファイルを運用・作成している市町では、保護者版サポートファイルのあり方について再考する意見が報告された。特に、保護者版サポートファイルを運用・作成する市町からは、「保護者が十分に活用できていない」状況が改めて明らかとなり、今後の改善が急務であることが共有された。行政版・保護者版いずれにしてもシステムが作成段階に留まらず、作成後はシステムが機能しているかどうかを科学的根拠に基づいて再考し、システム改善に役立てることが望まれる。今後も、市町の協議会等を通じてシステム作りに参画を続けていく。

２　コロナ禍における発達障害支援の検討

令和２年度に北播磨圏域で実施した、アンケート調査の結果を、北播磨障がい福祉ネットワーク会議発達障害支援部会において報告した。アンケート結果から、コロナ禍の影響により保護者の不安感増大や本人の特性の強まりが一定の割合で確認ができ、多くの支援機関では、感染予防など特性により徹底が困難な場合もある中で、手探りのなかでも丁寧な対応を実践し、乗り越えようとしていることが認められた。今後、同様な災害等に備え、普段から「顔の見える連携」を一層推進することやネット環境など整備を進めておき、いざという時にタイムレスに連携が図れるように備えることが望まれることを共有した。

Ⅱ 事業実施状況

１　普及啓発・研修

（１）主催研修　実施回数　（実２回　延９回　参加者数９６人）
（２）講師派遣　実施回数　（延１９件　延参加人数５３６人）

２　コンサルテーション

（１）関係機関へのコンサルテーション　実施回数　（実９か所　　延２８件）
（２）家庭療育支援講座　実施回数　（実３か所　延２５件）

(3) THREE-P 自立訓練事業　「心理」授業　週１回　延４０回実施、コンサルテーション　延４回実施

毎週木曜日に「心理」の授業を年間通して実施した。新入生アセスメントのため、見学・体験・振り返り時の同席、効果指標のための「Vineland-Ⅱ　適応行動尺度」「ライフスキル尺度」「GHQ28　精神健康調査」

「SRS-18 検査　ストレス反応測定尺度」「BDI-Ⅱ　抑うつ質問票」を実施。
※法人内コンサルテーションは、事業実績範囲外のため県への報告はしていません。

3　相談支援

（1）相談支援　（実１８９人　延９７２件）
（2）発達支援　（実　１２人　延　２９件）
（3）就労支援　（実　　７人　延　２５件）

発達障害特性について就労先へ情報提供を依頼される相談が増えた。その場合は、就労先との連携を図りながら対応している。

4　機関連携

（1）発達障害者支援体制の整備及び機関連携のためのネットワーク会議等への出席　実施回数（延２０件）
（2）個別調整会議　実施回数（延７６件）

5　調査・研究

令和２～３年度にかけ「就学期の保護者支援」をテーマに、丹波市・丹波篠山市・三木市の３市こども発達支援センターに協力を依頼し、放課後等デイサービスを利用している保護者を対象にアンケート調査を実施した（配布：１２９部、回収：８４部、回収率：６５．１%）。調査結果より、放課後等デイサービスに求める支援としては、「言語療法」と「福祉・教育・家庭の連携」が高く、専門的療育だけではなく、学校・家庭・放課後等デイサービスの連携が求められていた。保護者相談のニーズでは、「子どもの発達特性を学べる」「困った行動の対処法の相談」「家庭内でできる療育についての相談」が求められていた。そのため、支援者に求められる専門性としては、特性理解につながるアセスメント力や、保護者に対して特性にもとづく本人の状態を説明できる力、家庭内で困った時に具体的に助言できる力が挙げられた。

本調査結果から、学校・家庭・放課後等デイサービスの連携が求められているが、各市町ではどのような取り組みがされているかの実態把握も含め、検討していくことが今後の課題として挙げられる。そのため、令和４年度には、「トライアングル」プロジェクトの取り組みについて、北播磨障がい福祉ネットワーク会議で検討をしていきたい。

令和３年度　障害者等相談支援コーディネート事業　事業報告

１．全体状況

今年度は、圏域内の相談支援体制の把握及び体制強化に向けた取り組みを重点的に取り組んだ。また、地域の人材育成体制を構築するため、相談支援部会や地域の相談支援事業所連絡会などで学習会を開催した。相談員が学びたいと考えていることや基幹相談支援センターとして指定特定相談支援事業所に学んでほしいテーマを選定するなど、現場でタイムリーに悩んでいることに対して学びを深めていく機会となった。学習会は今後も継続して実施するとともに基幹相談支援センターや主任相談支援専門員が中心となって講師を担ってもらうなどし、支援者支援の機会を作っていきたい。

２．重点目標に対する取り組み

（１）助言・指導

区　　分		助言・指導の区分				合　計
		相談支援体制等の構築・運営に必要な助言・指導	相談支援ケースへの対応等に必要な助言・指導	その他	左記のうち医療的ケア児関係	
相談関係	①　指定相談支援事業所従事者	１２１ （２９）	７０	１７０ （１９）	４８	３６１
	②　市町職員 （障害福祉担当課に限る）	６６ （３０）	１０	２０７ （５２）	８２	２８３
	③　上記以外の相談支援関係者 （例：障害者相談員、民生委員等）	９２ （１９）	６１	１７９ （５）	２４	３３２
④　保健・福祉関係者（市町職員含む）		５４ （１４）	１４	６３ （９）	２３	１３１
⑤　教育関係者（市町職員含む）		１３	２０	３０	０	６３
⑥　労働関係者 （ハローワーク等行政関係者）		１	５	７	０	１３
⑦　企業等		０	０	０	０	０
⑧　障害福祉サービス事業者等		２２ （５）	５４	１１７ （５）	１０	１９３
⑨　その他		６	１１	６８ （１）	１	８５
⑩　障害者本人		０	２８	６６	０	９４
⑪　障害者の家族等		２	４４	１３７	０	１８３
合　計		３７７	３１７	１，０４４	１８８	１，７３８

（２）研修事業

別紙参照

（３）相談支援体制の構築

① 相談支援体制等の構築・充実に向けた取組

■相談支援体制について

圏域内５市１町基幹相談支援センター（３市：三木市、西脇市、加西市）、委託障害者相談支援事業所（多可町、小野市、加東市、西脇市）による相談支援部会を年５回実施。

内容としては、医療的ケア児支援部会の実施内容や今後の在り方等について相談支援の立場から協議した。また、令和３年度からの取り組みとして、学習会を年４回実施。内容は、部会に出席している相談員全員にアンケートを行い、要望が多かった内容を取り上げた。その他、各市町の状況の共有や業務において疑問に感じること、広域で見解を統一した方が良いこと、解決したい課題などについて意見交換を行った。

■北播磨ネットワーク会議の組織体制について

市町で解決できない課題について北播磨ネットワーク会議にて集約するものの、そこから圏域で解決を図ったり、圏域で解決できない課題は県へという流れ、仕組みができていない。その流れのシステム化を図るため、加東健康保健事務所に参画を依頼し、将来的には圏域協議会の立ち上げに向けて働きかけてきたいと考えている。

ただ、加東健康保健事務所職員に相談すると、所内の担当課が細分化しており、圏域の課題集約と解決に向けた働きかけを含めて総合的に対応できる部署がないなど組織的な課題があることを認識。組織体制整備については、横の連携だけでなく、縦の連携、働きかけも同時並行で必要だと感じている。

② 医療的ケア児等に対する支援体制の構築・充実に向けた取組

○昨年度、医療的ケア児支援をおこなっている福祉事業所や医療従事者などに対してアンケート調査を実施した内容の中で「医療的ケア児等支援に関する研修会の開催」についての意見が多くあったため、今年度、医療的ケア児等に対する理解を深め、北播磨圏域内のさまざまな職種の関係者が交流できる場にすることを目的に研修会を実施した。

○北播磨障がい福祉ネットワーク会議（市町部会、相談支援部会、医療的ケア児支援部会）にて、医療的ケア児等コーディネーターの配置に向けた協議をおこなった。

○北播磨障がい福祉ネットワーク会議医療的ケア児支援部会で協議されている様々な課題（本人、家族向けアンケート調査項目の検討、支援者ネットワーク構築や連携の構築、情報共有システム、支援力向上研修、地域課題アプローチ方法の検討など）に対して、議論を進めて行くため、医療的ケア児支援部会とは別にワーキングチーム連絡会を発足。医療的ケアが必要な方に対して日常的に支援している福祉サービス提供事業所や医療関係者と行政、相談支援事業所で構成。

令和３年度　障害者等相談支援コーディネート事業　研修事業報告

開催日時	開催場所	内容・テーマ	対象者	参加者数
5/29　10：00～12：00	健康福祉会館	「障害者虐待の防止と対応について学ぶ」	相談支援従事者	１２
6/8　14：00～15：00	西脇市役所	「自立支援協議会について」	相談支援従事者	１３
8/6　13：30～15：00	北部公民館	「最新！シニア事情」	老人クラブ	６６
8/23　16：30～17：30	小野市立ひまわり園	「障害者支援施設における虐待の防止等について」	障害福祉サービス従事者等	３０
9/2　10：00～11：30	加東健康保健事務所	「医療的ケア児等支援のリハビリケアニーズ及び北播磨圏域の現状と課題について」	県保健師、医療従事者	１０
10/6～7　8：30～18：00	福祉のまちづくり研究所	「相談支援従事者初任者養成研修演習講師」	相談支援従事者初任者養成研修受講者	５８
10/12　14：00～16：00	社福祉センター	「障害年金申請～手続きマニュアル～」	相談支援従事者	１３
10/21　9：00～11：00	西脇市健康福祉連携施設	「サービス等利用計画作成のポイント」	相談支援従事者	１３
11/15　13：30～16：30	加西市民会館	「ひきこもり支援について」	行政職員、教育関係地域包括、障害福祉サービス従事者、相談支援従事者等	５７
11/2・25・26 8：30～18：00	福祉のまちづくり研究所	「相談支援従事者初任者養成研修演習講師」	相談支援従事者初任者養成研修受講者	５８
12/1　14：00～16：00	社福祉センター	「ひきこもり支援について」	相談支援従事者	１１
12/16　9：00～11：00	西脇市健康福祉連携施設	「トライアングルプロジェクトについて」	相談支援従事者	１２
12/20　14：00～15：30	加西市役所	「高齢障がい者支援学習会の講評」	行政職員、地域包括、保健師、ケアマネ 相談支援従事者	２７
12/22　10：00～12：00	小野市役所	「協議会について」	行政職員、教育関係、特別支援コーディネーター、障害児サービス従事者等	２１
1/11・13・14 8：30～18：00	福祉のまちづくり研究所	「相談支援従事者初任者養成研修演習講師」	相談支援従事者初任者養成研修受講者	５８
2/8　14：00～16：00	オンライン	「地域生活支援拠点整備について」	相談支援従事者	１３
2/11・14・15 8：30～18：00	オンライン	「相談支援従事者現任者養成研修演習講師」	相談支援従事者現任者養成研修受講者	７１
2/18　9：30～11：00	コープ協同学苑	「児童生徒の理解と対応」「児童生徒の人権の尊重」「介助員の心得」「グループワーク」	神姫トラストホープ株式会社従業員	３０
3/9～11　8：30～17：30	オンライン	「相談支援従事者現任者養成研修企画構成員」	相談支援従事者現任者養成研修受講者	７１
3/15　15：00～16：30	オンライン	「障害者地域自立支援協議会の目的や活用方法について」	当事者、家族団体行政職員、教育関係、障害福祉サービス従事者、相談支援従事者等	２７
3/17　9：00～11：00	西脇市健康福祉連携施設	「社会資源の活用や視点について」	相談支援従事者	１４
合　計				６８５

部署名：児童支援部

①地域貢献の視点			
重点課題	**療育のクオリティーの維持、向上（なゆた）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・実施内容で記した「課外課題の増加」という点において、北条鉄道法華口駅までの遠足、加西ランドマークタワーまでの登山等を実施してきた。普段の室内における療育では見られない児童同士の交流、表情をみることができた。		
次年度に向けて	・新たに課外活動として、北条鉄道の電車を貸し切り、電車内でクリスマス会をおこなう予定をしている。		
重点課題	**療育利用希望に応える　（なゆた）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・欠席連絡の入った児童に対しての振替療育の案内、及びプラス療育の案内は、児童支援部の職員全員で最も意識してきた点であり、多くの振替療育とプラス療育を実施してきた。（※利用割合等については財務の視点に記載）		
次年度に向けて	・令和４年度に向けての保護者向けのアンケートの中で、「週２回以上の療育を希望するか否か」を確認したところ、１０人以上の保護者から「希望する」の返答があった。令和４年度は、週２回目の利用可能枠１に対して利用していただき、欠席発生時に希望している児童から優先的にプラス療育の案内をおこなっていく予定。		
重点課題	**受け入れ態勢と利用児童数のバランスを考慮した上で、可能な限り利用受け入れ（タイムケア）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・現在利用中の児童の中に他害行動のある児童がいる事を考慮し、他の児童や職員の安全を考慮して１０人の定員に対して９名の利用数を続けてきた。しかし、各関係機関から受け入れ要望の連絡があり、少なくともう１名の受け入れはおこなっていかないといけない状況にある。		
次年度に向けて	・令和４年５月から新１年生が利用予定。この児童の利用開始によって１０名利用の予定であったが、新年度開始直前で児童１名が放課後等デイサービスの利用を機に退所することとなり、結果計９名の利用となる。残り１名の枠に関しては、福祉課等と相談しながら希望がある際に受け入れを検討する予定。		

②財務の視点

重点課題	定員の維持（なゆた）	事業判定	継続

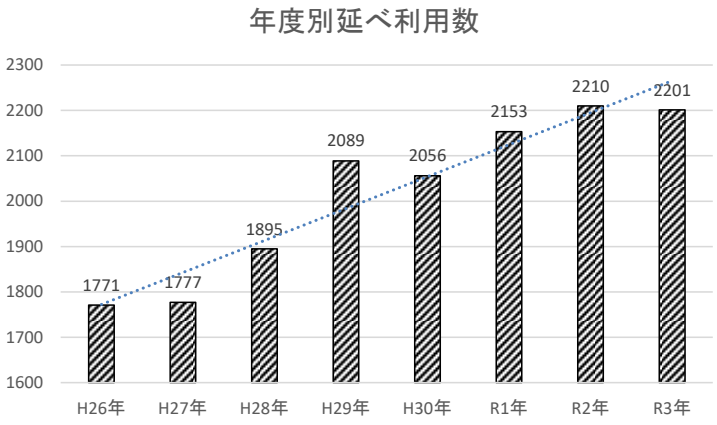
実施状況

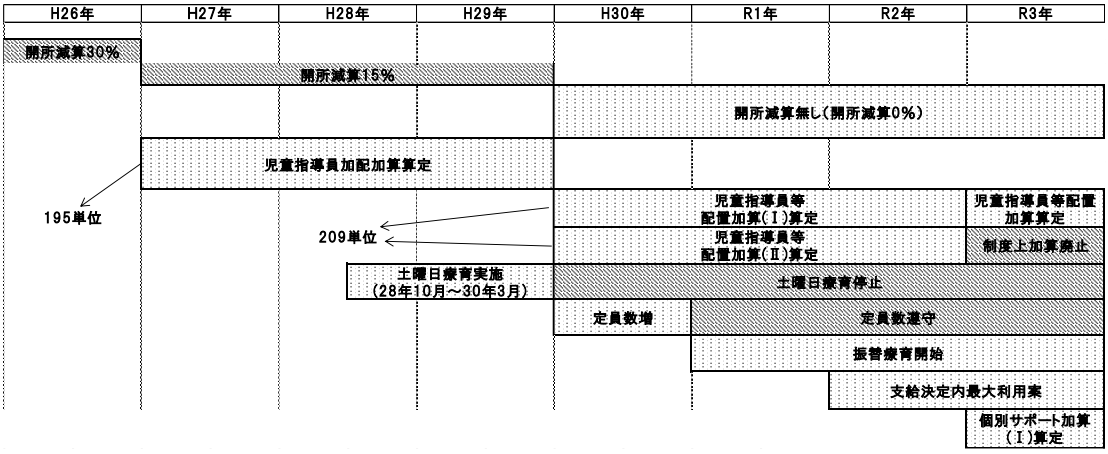
・定員の維持は令和３年度も達成することができた。収益の観点においても、児童指導員等配置加算（Ⅱ）が制度上廃止された代わりに導入された個別サポート加算（Ⅰ）を算定することによってカバーする事ができた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H26年	100	140	154	170	140	160	176	148	148	156	156	123	1771
H27年	151	143	175	156	156	156	148	150	150	146	145	101	1777
H28年	126	136	169	154	158	151	158	164	162	178	198	141	1895
H29年	149	168	198	173	173	189	187	185	181	172	169	145	2089
H30年	161	193	188	175	168	146	194	191	171	163	162	140	2056
R1年	182	178	187	211	165	182	201	179	179	174	166	149	2153
R2年	181	168	215	206	177	190	213	182	172	164	165	177	2210
R3年	198	170	200	183	186	188	186	187	185	168	168	182	2201

・各職員が、職員の生産率の話を受け、収益に意識を向けてくれるようになり、欠席に対する意識が変わり、積極的に振替療育とプラス療育を案内するようになったことが功を奏した。

・令和２年度の年間利用割合 9.33 人/日に対して令和３年度は 9.26 人/日という結果であったが、７月と１０月に感染症の影響によって令和２年度以上の欠席数があったことを考慮すると及第点であり、延べ利用数はほぼ前年度と同数を維持することができた。





次年度に向けて	・前年度、今年度の数値から現在のなゆたの形態では 2200 人/年が１つの基準になると予想されるため、可能な限りその数値に近づける。

重点課題	必要の無い経費の削減 （なゆた）（タイムケア）	事業判定	継続
実施状況	・児童支援部の経費として、人件費以外の部分では光熱費が大きいが、これに関しては福祉会館の面積割合で算出されるため、対応が困難である。それ以外の経費としては事務用品、療育に必要な遊具や課題具があげられる。事務用品に関しては必要な物はある程度決まっており、定期的に必要な物を購入しており、その管理は事務用品購入担当の保育士が必要な物のみを購入するよう管理している。療育に必要な遊具や課題具に関しては、なゆたが開所して９年が経過し、経年劣化やバリエーション不足を補うため今年度は意識して購入するようにしていた。経費の削減という課題とはアンマッチではあるが、事業所のクオリティー向上とのバランスを考慮すると、必要経費と考えられる。		
次年度に向けて	・収益面が安定するまでは、月々の物品購入も可能な限り控えるように考えていたが、令和３年度に遊具、課題具を少しずつ増やす中、それを使う児童の様子を見て、必要な物は購入していく意識を継続しつつ、可能な範囲で経費削減に努めるという方向性でいく。		

③顧客の視点			
重点課題	保護者とのコミュニケーションを密にする　（なゆた）（タイムケア）	事業判定	継続
実施状況	・保護者との面談、相談は主に心理士２名で対応してきた。家での児童への対応、園との様々な面におけるすり合わせ、就学に向けての悩み、家庭の事、等について色々と保護者と話をしてきた。保護者とのコミュニケーションの時間は、年毎に増えてきている。就学前の児童を支援する事業所として保護者との面談はとても重要であり、児童・保護者両面からの支援の形として良い傾向であると考える。		
次年度に向けて	・令和２年度、令和３年度と続けて(主に)保護者向けの講演会とワークショップを実施した。令和４年度も普段保護者と話をする中から要望が強いと思われる点に注目した会を実施していく。		
重点課題	保護者評価の「支援に満足している」のパーセンテージの維持　（なゆた）	事業判定	継続
実施状況	・兵庫県から定められた様式を保護者に配布し、評価をしてもらっている。「事業所の支援に満足しているか」の項目において、目標としている９５％を超える事ができた。		
次年度に向けて	・児童発達支援事業所が評価される際に、最も結果を残すべき点は「児童の発達の変化」である。これに対し、保護者の評価は、職員の言葉使い、態度、表情、総じて立ち居振る舞いに影響を受けやすい。対人援助職の職員として当然できていないといけない点なので、それを踏まえて評価していただけている事に関しては好ましい結果ではあるが、慢心せずに児童の「具体的な」変化を促し、気づき、保護者に報告していく。		

④業務プロセスの視点			
重点課題	**就学前という大切な時期に関わらせてもらっている、という意識を職員間で適宜確認していく（なゆた）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・加西市では、教育委員会がトライアングルプロジェクト（教育と保護者と福祉の密な連携）に積極的に取り組み始めている。児童支援部としては、子ども支援検討会を通して、事業所の周知等を行った。同時に、加西市特別支援教育コーディネーターネットワーク会議に参加し、「就学後の児童に対して児童発達支援事業所ができること」について話をした。今まで通り、就学前児童の保護者には、就学先の学校になゆたの情報を提供可能である事、必要に際して職員を派遣することもできることをアナウンスしてきた。 ・児童支援部の職員会議の中で、児童１人１人の個別支援計画の確認、普段の様子の報告等を継続してきた。		
次年度に向けて	・子ども支援検討会に引き続き参加し、就学前後の児童に対する、関係機関同士の繋がりを補強していけるようにする。 ・毎年就学前児童の保護者からの相談で「通常の学級 or 支援級」、「支援学校 or 支援級」が話題にあがるため、その話題に向けての情報収集、アドバイスを模索し続ける。		
重点課題	**利用を終了した児童（就学した児童）についての相談への対応（なゆた）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・なゆたの利用終了時、全ての保護者に、療育は終了するが相談は引き続き受ける事が可能であると伝えてある。以前から継続的に相談が続いている保護者が２名～３名おり、継続して相談を受けている。		
次年度に向けて	・なゆたを利用していた児童が就学後どのような発達を経ていったのかに関する情報はとても重要であるため、保護者のフォローアップの継続と共に現在利用してくれている児童のためにも多くの保護者と多くの話をしていく。		
重点課題	**児童、職員相互に怪我をしないための業務形態の構築（タイムケア）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・他害行動のある児童に、基本的に男性職員２名のどちらかがつき、適宜散歩をすることによって他害行動が発生する状況自体を減少させることで、令和３年度は、前年度と比べると職員と児童の怪我は大きく減少した。		
次年度に向けて	・児童本人の成長と発達によって状況が好転、もしくはその逆の可能性もあるが、いましばらくは対処療法的ではあるが今の支援形態を継続する。		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	**療育のクオリティの適宜確認**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・令和３年度は、児童支援部の職員として保育士が１名増えたため、今まで制作活動に主に従事していた保育士１名に、机上学習(太田 stage)を指導し、机上学習を３人体制で実施した。当該保育士も１年かけて机上学習の流れを獲得し、問題無く机上学習担当職員として従事できている。机上学習担当が１名増えたことによって療育実施の幅が広がった。		
次年度に向けて	・児童発達支援事業所の役割で重要なのは児童自身の発達支援であるが、最も子どもの発達に影響を与えるのは保護者(特に母親)と児童の関わりであるため、保護者支援無しに直接的な療育だけでは意味をなさない。今まで以上に保護者が相談しやすい空気、知識を獲得していく。		
重点課題	**利用児童の発達年齢に寄り添った支援を提供する(タイムケア)**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・令和３年度は学生のパートが多くタイムケア事業に勤務しており、それぞれの児童に対して、粗大運動を好む児童とは活動的に遊ぶ、宿題やお絵かきといった静的な活動を好む児童には一緒に座って見守るという風に、特性に合わせた支援を行った。		
次年度に向けて	・大学卒業等によって職員の顔ぶれ、人数が変化しているが、引き続き児童１人１人の特性に寄り添った支援をしていくよう職員間でコミュニケーションをとっていく。		

部署名：介護保険部

①地域貢献の視点			
重点課題	**地域との協働事業の推進**	**事業判定**	**継続**
実施状況	【第２層生活支援コーディネーター】 ・一部ではあるがサロンやマルシェの運営に協力はできた。担当地区のふるさと創造会議に参加し、地域課題の整理を試みたが、課題が各地区で分散してあり難しかった。 ・北条の絆カフェ、下若井の体操グループの立ち上げを実施。継続支援を行っている。 【ふるさと創造会議の常任理事】 ・高齢者支援部会部会長を担うことで、どっこいしょの利用者が地域活動の場へ参加しやすくなった。 ・まちづくり基本計画にある、空き家の活用、休耕田の活用、ジビエの研究等の事業実施を行った。 ・関係人口創出事業に取り組み、地域に外部からの参加者を増やす取り組みをした。		
次年度に向けて	・生活体制整備事業の２層協議体として、ふるさと創造会議の活用を所管課と協働して進め、地域で高齢者が暮らし続けるための基盤づくりを進めていく。 ・令和４年度は、西ありた地区の夏祭りを再開する計画なので、祭りの計画から参画し多くの人が参加できる祭りを企画する。		
重点課題	**認知症カフェの実施**	**事業判定**	**継続**
実施状況	【下若井町】 ・新型コロナ感染症拡大防止対策のため、蔓延等防止措置が発出されている月は未実施。民生委員より、コロナフレイルの独居高齢者が増えているため、何とか参加できる場を継続したいとの話もあり、不特定多数の参加者を募るカフェではなく、特定少数で実施した月もある。実施できる月は、３０名くらいの地域の高齢者が集い、１２月は住民からのリクエストによりクリスマスランチを企画し、北条で飲食店をやりたい若者に食事提供を依頼した。 ・地域の人が参加する場でもあるが、どっこいしょの利用者、地区の後期高齢者も参加しやすい場づくりを行った。 【北条町】 ・北播磨の絆カフェ立ち上げ資金の助成金申請の事務を担い、障がいのある人、家族と一緒に使用していない飲食店でカフェの立ち上げを実施した。 ・あったか介護相談員の研修会でカフェを活用し、市内のグループホーム・どっこいしょの利用者、兵庫大学の学生が交流できる場として活用した。 【社会福祉協議会のカフェ】 ・北条高校での出張絆カフェ等に協力した。		
次年度に向けて	・主催者、参加者の意向に沿い認知症の人や地域住民等で誰もが参加できる場として継続できるように協働実施していく。		

重点課題	地域密着型サービス事業所連携	事業判定	継続
実施状況	・定期開催の会議はオンラインで実施。協働実施していた事業は新型コロナ感染症拡大防止のため企画から困難となったが、合同の研修は２回開催した。介護職員向けに生活リハビリの理解を深め、各事業所で取り組めるような内容で研修を企画しどっこいしょからも４名の職員が参加した。 ・感染症対策について情報交換をし、事業所で新型コロナ感染症が発生した場合の対応について勉強を行った。 ・４年ぶりに実地指導が小規模多機能型居宅介護にあり、各事業所で人員配置、加算の算定要件、重要事項等についての指導があった。実地指導の標準化と効率化のため厚労省から新たなマニュアルができていたため、各事業所でこれまでより指摘事項が多かった。それらの実地指導での指摘事項を共有し、各事業所で適切な事業運営、業務管理体制の構築について検討している。		
次年度に向けて	・各事業所が OFF-JT として活用できるよう、研修会の企画実施を行う。外部講師を呼ぶため、県の助成金を申請する。 ・感染症対策等必要な情報交換を医師会や保険者の協力も得られるよう話し合っていく。 ・実地指導の指摘事項で、厚労省の通知と保険者の解釈の違い等不明な点を整理し、地域密着型事業所として、加西市に運営指導に対する説明会の実施を依頼する。		
重点課題	認知症等啓発活動	事業判定	継続
実施状況	・市の担当者と学童向けの認知症講座のテキストを作成し、日吉小学校で講座を実施した。 ・市の担当者と学童と家族向けの認知症講座を冬休みに企画実施した。 ・あったか声かけ作戦での認知症サポータ養成講座に協力した。		
次年度に向けて	・認知症講座については依頼があれば、継続して協力していく。 ・生活支援コーディネーターとして地域の集まりに参加していると、家族から認知症の困りごとを聴く機会が多い。家族の困り感は深刻な場合が多いが、地域住民の理解は希薄であり「認知症＝困る」「認知症＝住めなくなる」というような偏見が多い。地域で暮らす認知症の人への対応は、初期集中支援や地域包括支援センターが介入しているが、困ってからの介入になることが多くサービスにつなげて解決するので、住民の不安は払拭されないまま蓄積されている。地域で暮らしづらさを感じる人が、安心してその地域で暮らし続け、地域参加していけるような地域づくりを活動基盤としていきたいと考えている。		

②財務の視点			
重点課題	**予防から看取りまで利用**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・要支援で利用開始した人が、介護度が上がってきても継続利用できている ‣平均利用年数は４年１９３日。利用年数最長の利用者は１４年４か月。平成２４年から利用している方(１０年)が多く４名。 ‣長期に利用している方は、利用開始時は骨折入院からの在宅復帰であるため、要介護１～２だが、利用開始１年後には要支援１～２に回復し維持している方が多い。利用期間が５年くらい経過し９０歳代になる頃に、身体機能が落ちて介護度が上がる傾向がある。 ※基礎疾患の悪化やや認知機能の低下により、急に介護度が上がる人もいる。 ‣利用開始時の平均介護度は要介護 1.1 で、現在の利用者の平均介護度は 2.8 となっている。長期間利用している利用者の介護度は確実に上がる。 ‣利用者の中で、要支援２で９０歳から利用を開始し、８年経過した現在も要支援２の方もおり、元気に長期の利用継続ができている方もいる。 ・在宅医の往診、訪問看護との調整を行っている。 ・退院後や老人保健施設でのリハビリテーション終了後の在宅復帰時の連泊や自宅の環境調整等実施し、利用者・家族が安心できるよう支援をしている。		
次年度に向けて	・引き続き利用者が継続してどっこいしょのサービスを選択し続け、人生の最終段階まで利用できる環境を維持する。		
重点課題	**退院後の利用促進**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・在宅医療の利用調整等円滑に実施できている。 ・事業所内で生活リハビリテーションの推進を行っていく必要があるが、職員に十分な知識がなく、職員配置が不十分なためできていない。 ・連泊をしている利用者が４名おり、宿泊定員が７名なため希望通り宿泊利用できない場合退院日を調整することがある。		
次年度に向けて	・退院後の不安を取り除き、スムーズに自宅に戻れるよう、必要なサービスの調整自宅の環境調整を実施していく。 ・宿泊枠に関しては連泊が必要な人の在宅での暮らしを再考し、適切にサービス利用ができるよう検討する。 ・生活リハビリテーション等職員が取り組めるよう 0JT に充実を図る。 ・退院後の音楽療法の活用について、音楽療法士と調整する。		

③顧客の視点			
重点課題	**人生の最終段階へのサービス提供**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・アドバンスケアプランイングの活用はできていないが、人生の最終段階において本人、家族の意向の聞き取りによりサービス提供はできている。 ・看取り契約に基づき、本人の希望する場所で人生の最終段階を過ごせるよう調整している。どっこいしょで過ごしたい方がほとんどである。 ・令和３年度も医師より１か月未満の余命宣告を受けて契約したが、半年近く穏やかに過ごしている人がいる。延命等は希望しないが、ほとんどの人が医師の余命宣告よりも穏やかに長生きする傾向にある。		
次年度に向けて	・本人が苦痛なく、穏やかに死を受け止め穏やかに過ごせるように、職員の精神的なフォローを行える体制づくりを行う。 ・長期間利用し最期の時を過ごす場所としてどっこいしょを選択してもらえるような情報発信を行う。		
重点課題	**独居高齢者への夜間訪問**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・夜間訪問体制を整えるのは、現在の人員や報酬体系では困難である。 ・認知症のある後期高齢者で日中の通いや訪問を利用している利用者に対して、就寝準備等の訪問を終えた後に、その利用者が食事をし、喉を詰まらせて亡くなったケースがあった。夜間訪問の充実があればこのような事故は防げる可能性がある。 ・勤務時間は臨機応変に変更しにくいため、必要時宿直の稼働、超過勤務で対応している。		
次年度に向けて	・夜間随時訪問が必要な際の、連絡体制や勤務の調整をできるように体制整備を行う。 ・夜間に訪問をしなくても、自宅で安心して暮らせるような日中の支援の充実を検討する。		
重点課題	**在宅医との連携強化**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・かかりつけ医師が在宅診療をしていない利用者の、かかりつけ医師の変更は調整が難しい。		
次年度に向けて	・訪問診療をしていない医師がかかりつけ医の場合、何らかの理由で通院が困難となった場合、急変時は本人が希望しなくても救急搬送する必要がある。身体機能が低下した場合や、持病等が急変した時に、どうしたいのかを話し合っていく。 ・在宅医が訪問診療をしやすいように、利用者の利用状況や診療時間を調整する。		

重点課題	日中活動の充実	事業判定	継続
実施状況	・職員不足による、職員のモチベーション低下がみられ、ルーチーンの日中活動の継続が難しいこともあった。 ・職員の力量の差が大きい、雇用形態の違いによる意識の差があり、職員配置によっては、何もできずテレビを見て過ごすだけの日も多かった。 ・長引く新型コロナ感染症対策で、外出や事業所内へのボランティアの出入りに制限があり、日中活動をどっこいしょ内で提供することが多かったため、マンネリ化せざるを得なかった。 ・利用者アンケートの集計実施(アンケート集計別添)		
次年度に向けて	・利用者の後期高齢化に伴う身体機能の低下等で活動意欲が低下している傾向にあるが、日常生活でできることを継続し身体機能や認知機能の低下を防いでいくために、利用者の望む日中活動ができるように検討していく。 ・正規職員が中心になり、日中活動を企画し何もしないで過ごす日をつくらないように計画する。 ・利用者アンケートを再度実施し事業所評価を行う。		
重点課題	フレイル予防	事業判定	継続
実施状況	・フレイル評価はしていないが、体重減少の著しい人や、緩やかだが減少している人が多い。主観的な疲労感を訴え、意欲低下がみられる人も多い。外出の機会が減り、身体活動量の低下や歩行速度の低下も見られる。 ・口腔機能維持のための体操を毎昼食前に行い、食後全員の口腔ケアを個別に行っている。嚥下機能の著しい低下がみられる利用者はいない。		
次年度に向けて	・フレイルに関する知識を職員が身に着け、日中活動を充実していく中で予防していく。 ・ライフサポートプランにフレイル予防について明記していき個別に必要なサービスを提供していく。 ・口腔機能維持についての知識を持ち、続けていけるようにする。 ・訪問歯科診療を充実させ、連携強化を行う。		

④業務プロセスの視点			
重点課題	個別ニーズに対応したサービス提供	事業判定	見直し・継続
実施状況	・個別支援会議で個別サービスの検討を実施。 ・ライフサポートプラン作成時、全職員が確認しモニタリング、プランの見直しを実施。		
次年度に向けて	・サービス提供体制強化加算の算定にかかる会議の在り方を検討し、個別ニーズの確認や、職員間での認識・理解の共有を図る。 ・個別支援会議は随時実施し、ニーズに応じたサービス提供を実施する。		

重点課題	人生の最終段階における意思決定支援	事業判定	継続
実施状況	・ライフサポートプラン更新時に、必ず本人・家族の意向を確認している。 ・普段から、人生の最終段階をどのように過ごすかについての対話をタブーにせず日常的に本人の意思を確認している。 ・本人の意思に基づいた看取り計画を立て、意思決定支援を実施している。 ・家族の意向と本人の望みが違う場合は、家族の意向に本人が従う場合が多く、意思決定支援ができないこともある。		
次年度に向けて	・継続して利用者の意思確認を行っていく。 ・ライフサポートプランに本人の意思を明記し、変更があった場合はケース記録に記録しながら、人生の最終段階に向けて揺れる想いを共有していく。 ・元気な時から想いを共有し、看取り期に本人が望む暮らしができるように、ACP を実施する。		
重点課題	退院後の受け入れ体制整備	事業判定	継続
実施状況	・令和３年度は入院後、老人保健施設や療養型サービスにサービス変更する人がいなかった。 ・泊り利用者の調整や、在宅の調整ができている。		
次年度に向けて	・持病の悪化や転倒を防ぎ、利用者が入院しなければならない状況を減らしていくために、日々の健康管理、体力維持、リハビリテーション等に取り組んでいく。 ・やむを得ず入院をしなければならない状況や、急変時には可能な限りの便宜を図りどっこいしょに帰ってきたいという気持ちを持てるように関わる。 ・泊りや、在宅復帰の調整ができるよう関係機関と連携を深める。		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	OJT の実施	事業判定	継続
実施状況	・月１回の OJT を企画していたが、職員の都合等で実施できない月があった。 ・時間外に実施すると、参加できない職員が必ずいるため、時間内に実施できるように調整したが、利用者の状況により対応しながらの OJT になり、十分な学習環境を調整できなかった。 ・OJT で職員間のコミュニケーションを深めたり、認識の共有をしたりすることができなかったため、チームワークにも影響していた。		
次年度に向けて	・OJT が必要であり、有効なコミュニケーションの場であることは職員間で理解できているので、職員がモチベーションを持って参加できるテーマ設定を行う。 ・年間計画で実施日を決めておく。 ・記録や報告を簡素化し参加職員の負担感を軽減する。		

重点課題	実習生の受け入れ	事業判定	継続
実施状況	・令和３年度は実習希望者がなかった。 ・以前、実習に来ていた学生が就職してからも現状報告等してきている。		
次年度に向けて	・豊岡短期大学の社会福祉士養成課程の実習希望者の受け入れ２名が決まっている。 ・年度途中に実習希望者がある場合は、積極的に受け入れる。 ・実習生を受け入れることで実習担当者のスキルアップを図る。		
重点課題	事業所評価の実施	事業判定	継続
実施状況	・２年に一度実施し、公表している。		
次年度に向けて	・職員の自己評価、利用者からの評価、外部からの評価を行い、年度末にホームページに公表する。		

どっこいしょサービス利用者アンケート集計結果
◎アンケート実施期間2021年3月20日～4月20日
◎対象利用者21名

2　アンケートを誰が書いたか

		人	%
1	自分で	2	9.5%
2	家族	1	4.8%
3	どっこいしょ職員と一緒に	18	85.7%
4	その他	0	

3　どっこいしょの提供するサービスについて

①通い利用したい日に、利用したい回数の利用ができていますか

		人	%
1	はい	14	66.7%
2	いいえ	3	14.3%
3	わからない		

週に何回通いを利用したいか

0回(利用したくない)	2	9.5%
週1回	0	0.0%
週2回	1	4.8%
週3回	1	4.8%
週4回	0	0.0%
週5回	0	0.0%
週6回	0	0.0%
週7回	0	0.0%

・もう少し家で過ごしたい
・毎日はちょっとしんどい。夕食食べてからが長い
・いつこけるか分からないから、一人の時に来ている
・今はどこにも行かず家に居てる方がいい
・今までみたいに動くことができないから、行かせてもらうのは悪い
・助かっています、来たいときにすぐ来れる
・目上の人との交流も教えられることが多いと思うが、今は家で自由にのんびりしていたい
・ずっとおいてもらって、困ることがないから、長生きしてしまう
・家族の負担になっていると思う
・人がいっぱいいるところで毎日過ごすのは嫌気がさす
・毎日行ったら、誰かに何か言われるが、ほんまはよーさん行きたい

② **通い利用時にしたい活動ができていますか？**

		人	%
1	はい	14	66.7%
2	いいえ	3	14.3%
3	わからない	3	14.3%

◎どんな活動が楽しいですか？さらに、どんなことがしたいですか？

・音楽が楽しみ
・みんなで調理したこが、楽しかった。歳とったのでもうできない
・話をすることが楽しみ
・横になる時間があるのが幸せ
・今まで通りでいい
・体が動かなくなってきた
・みんな親切にしてくれる
・数字合わせが楽しい
・腰が痛いから何もしたいことがない
・話ができるのがいい
・できることは手伝わしてもらう
・横になるのが楽しみ
・人との会話、みんなと一緒のゲーム、歌などが楽しです
・音楽が楽しい
・歌を歌うこと
・壁画作り
・音楽を聴くのが好き
・じっとあそんどって、楽しいわな
・遊びながら体を動かすのがいい
・着物を縫いたい

◎どんな活動をしたいですか？

・楽しかったけどいろいろできなくなった。
・何がしたいと言われても何もできなくなった
・畑のことは気になるができなくなったら
・したいことはない
・しよう言うてもあかんわ

◎通いについて、日ごろ感じていることを教えてください

・ずっと座っているのがしんどい。足が痛くなる。
・したいことはない
・仕事ができていない
・連れができるのがいい
・今は寝ていた方がいいと言われるので、寝ている

③お風呂は自分自身が入りたいと思う回数入れていますか？

		人	%
1	はい	17	81.0%

◎週何回、どこで入浴していますか

自宅

週　1　回	1	4.8%
週　2　回	3	14.3%
週　3　回	0	0.0%
週　4　回	0	0.0%
週　5　回	0	0.0%
週　6　回	0	0.0%
週　7　回	6	28.6%

どっこいしょ

週　1　回	0	0.0%
週　2　回	6	28.6%
週　3　回	0	0.0%
週　4　回	0	0.0%
週　5　回	0	0.0%
週　6　回	0	0.0%
週　7　回	0	0.0%
自宅で時々	1	4.8%
週2回どっこいしょ　週1回自宅	1	4.8%

2	いいえ	3	14.3%

◎週何回、どこで入浴していますか

・週2回どっこいしょ　1人

3	わからない	0	0.0%

◎入浴について日ごろ感じていることを教えてください

・これからも家で入りたい
・風呂に入ったらさっぱりするけど足が痛くて困る
・またぐのが大変になってきている。1日おきに洗濯している
・浴槽につかれなくなった
・上がったら具合が悪い
・シャワーで十分
・良くしてもらってる
・こまることはない
・みんな良くしてくれる
・できたら毎日入りたい。お風呂は好き
・夏は暑いから
・毎日入りたいとは思わない。お風呂で亡くなった人がいるから心配
　一人の時は入れない
・湯舟の中が汚れているときがある
・週2回で充分
・お風呂の準備もできるし、一人で入ることもできている

・昔友だちと一緒にお風呂に入っていたころが懐かしい、あの頃が楽しかった
・運動のための思っている
・体を温めて寝る方が良いので続けていきたい
・年いって来たら、2回で充分
・頭まで洗ってもらって助かっている
・その日の体調、気分が一致したときに入りたい
・もっと入りたいが、人の世話にならなあかんから、今のままでいい
・何をするにも人の手がいるし、特にしたいと思わない
・風呂がぬるい、さぶい、風邪をひく
・寒いときに入りたい

④どっこいしょの食事はおいしいですか？

		人	%
1	はい	16	76.2%
2	いいえ	1	4.8%
3	わからない	2	9.5%

◎食事に関する希望

・時々外食したい
・出たもんいただくので何でも食べます
・自分の思たようにしてきて。少し水臭い
・好き嫌いも多かった。量は減らしてもらえて助かっている
・野菜は食べるようにしている
・カレー・シチュー・焼きそば・お好み焼きが美味しい
・みんな美味しい
・おいしい。量もちょうど良い
・おいしいよ。みんな好きなものばかり。何でも食べてる
・味も量もいい
・食事が楽しみ
・そんなこと言われへん
・好き嫌いはないので、なんでもいただきます
・何を食べても味ないことはない
・もっとおいしいもんをだされへんか？
・混ぜご飯はおいしい

⑤ 買い物は必要な時に不自由なく行くことができていますか？

		人	%
1	はい	8	38.1%
2	いいえ	13	61.9%
3	わからない	0	0.0%

・娘に買ってきてもらう
・土曜日家族と行っている
・必要時はどっこいしょに頼めている
・行けてないけど、買ってもらえるから困らない
・娘がいけない時は連れて行って欲しい
・行ってもらえている。行きたいと思わない

・行きたくない
・足が痛いから行きたいと思わない。家族に頼んでいる
・イオンに買い物に行きたいが、足が心配でいけない
・娘に買ってきてもらっているが、たまには自分の目で見て選びたい
・時々どっこいしょに行ってもらって助かっている
・娘も買ってきてくれるし、コープもある
・もうちょっと元気になったら行きたい
・買い物に行きたいと思わない、お金が心配

⑥外出したいと思い、外出できていますか？

		人	%
1	はい	6	28.6%
2	いいえ	13	61.9%
3	わからない	0	0.0%

◎行きたい外出先を教えてください

・花見
・自由に買い物したい
・お金を自由に使いたい。家族が管理するのが苦痛。
・段々腰が痛くなって出かけたいと思わなくなった
・行きたいと思わない。みんなが行くのなら一緒に行きたい。
・あまり出かけたいと思わなくなった
・買い物には行けないと困る
・出かけたいと思わない
・テレビのもりをしているのがいい
・行きたいところもない
・どこも行きたいとこがない
・遠いところには行きたくない。誘ってもらえるところがあったら、一緒に行きたい
こけたら世話にならないといけないから・・・
・お好み焼き
・行く気がしない
・重いよったらきりがない
・弟(広島にいる)のことが心配
・買い物、公園、花見に行きたい
・したいことは何とか続けられている
・友達が誘いに来てくれる
・買い物にいきたい
・ウエスト
・行きたいと思うが、体が動かない
・何か展示しているところに見に行きたい、ついでに買い物がしたい

⑦☒れまで続けてきたことで、続けたいことができていますか？

		人	%
1	はい	6	28.6%
2	いいえ	10	47.6%
3	わからない	3	14.3%

◎何故続けるのが難しいですか？どのようなお手伝いがあれば続けられますか？

・立ったまますることができにくくなった。どうどこうどできている。
・歳をとって意欲がなくなってしまった
・針仕事をしたいが、まどろこしくてできない
・薬やお金を管理されていることが辛い
・外出もできなくなった
・足が痛いのもつらい。散歩にも行きにくくなった
・近所の人と話をするのが少なくなった
・したいと思わなくなった
・一度体調を崩すと治りにくくなった
・CDを聴くのが楽しみ
・嫁が全部してくれる
・何をしてきたやろ・・・
・どっこいしょに行って数字ゲームをするのが楽しい
・体を動かしたいけどなかなかできない
・したいことがない。今までしてきたからもういい
・できてないけどしたいと思わない。家族も良くしてくれる。今のままで十分
・少しづつできなくなった。腕が痛いから服の脱ぎ着を手伝って欲しい。
・歩くのが精一杯、したいとは思わない
・そんな元気がない、今は全然あかん
・友達とつながり続けたい
・家事を続けたい
・自分でできていることを続けたい
・できなくなったら手伝ってほしい
・食べることは続けたい
・年をとったらあかん

4 どっこいしょの職員について

① どっこいしょの職員は優しいですか？

		人	%
1	はい	20	95.2%
2	いいえ	1	4.8%
3	わからない	0	0.0%

② どっこいしょの職員の言葉遣いは適切ですか？

		人	%
1	はい	20	95.2%
2	いいえ	1	4.8%
3	わからない	0	0.0%

③どっこいしょの職員が気を付けた方が良いと感じていること

・よう気をつけてくれたやから有難い
・声をかけて大事にしてくれる
・みんなよくしてくれる
・耳が聞こえにくくなった。音はするけど内容が分かりにくい
・みんな優しい
・けんかをしない
・みんなええ人ばかり
・優しい。爪を切ってもらって助かっている。聞こえにくいときがある
・言葉がきつく感じる職員もいるが、悪い人ではないと思う。慣れてきた。
・みんな親切
・そんなこと言われへん
・気になることがあるが、たまにあるが言えない
・自分の持ち物を投げられたことがある
・口調や態度がきついことがある
・どの職員さんも話しやすいです
・親切にしてくれる
・こんなうごかへんもんに、がいよ言うてくれる。気の毒に思う
・しょうが悪い人ばっかり
・人によって違う

5 どっこいしょについて

① どっこいしょの利用をして良かったですか？

		人	%
1	はい	19	90.5%
2	いいえ	2	9.5%
3	わからない	0	0.0%

②利用して良かったこと、不満に感じていること等教えてください

・どっこいしょがなかったら困ってしまう
※家族より、昼食の寿司の量が少なかった。注文を聴いてもらったが
わかりにくかった。以前の外食にも不満があった。
・家におりたい。家でゆっくりしたい。どっこいしょに不満はない
・近くで良い。付き合いも長くなり家族のように思っている。
・お風呂に入れてもらえる
・他に行くところもないし、買い物にも行ってもらえる
・みんなよくしてくれる。利用者さんもみんな仲が良い
・こんないいところはない。動けなくなっても置いてもらえるか心配している。
・人とのつながりが増えて楽しいです
・みんな親切でありがたい
・人とのかかわりが持てる
・朝の電話がうれしい
・家内があんな体やから、一緒に利用できてよかった
・利用日が楽しみ、わくわくする
・1週間に1回でも人に出会えるのがうれしい
・何もかも世話になって、どう返していいかわからない

・これ以上いうことはない
・よーこんなところがあったもんや
・よーきたなーと言われるのがうれしい
・楽しいこともあるから来てよかった

③人生の最終段階をどっこいしょで過ごしたいと思いますか？

		人	%
1	はい	9	42.9%
2	いいえ	8	38.1%
3	わからない	4	19.0%

④ どっこいしょで看取りをしていることについてどう思っていますか？

・安心できると思う
・近くの人がなくなるのは寂しい
・悪いとは思わない
・一人暮らしの人やから
・難しい
・うちはよ～せいへん。家を守らなあかん。
・よくしてもろて幸せやと思う
・家におりたい
・ここでおりたいと思う。
・帰りたいと思わない
・具合が悪かったら病院には行きたい
・ここにおいてもろて幸せやと思う。動けなくなったらおいて欲しいけど、
世話にならないといけないので心配。
・身内が来れるとこがいいと思う
・人が亡くなるのは仕方がない
・一人暮らしなので、家で亡くなるのは難しいと思う
・私もどっこいしょで亡くなりたい
・考えたことがない
・人が亡くなるのは当たり前だけど寂しいと思う
・慣れたところで亡くなれるのはいいことだと思う
・先は分からないけど、家で亡くなりたい
・家が無理なら、どっこいしょだったらいいと思う
・あないしておれたらいいと思う
・自然な形で亡くなられるのはいいと思う
・家におりたい、入院はしたくない
・ここで亡くなったら充分や、ここで世話してもらえたら結構や

⑤どのような条件が整えば、自身の望む暮らしが実現できますか？どんなことでも良いので教えてください。

・子供たちに帰ってきて欲しいけどそれは難しいと思う
・日々ありがたいと思っている。できれば家で過ごしたい。
・自分の建てた家におりたい。
・家で子供たちとお別れしたい。ただ、家族、嫁が体調を崩したらどっこいしょで世話になるかもしれない。
・嫁や息子、娘が良くしてくれると思う。主人も家で亡くなった。
・体が動かなくなったら誰かの世話にならないといけない。娘も週1回くらいしか来れないし、
どっこいしょの世話にならなあかん。頼むわな～
・泊めて欲しい。できるだけ家にいたい
・どうしたらいいだろうね。わからない
・どっこいしょに行くことが楽しみです

・いまのところ大丈夫
・できなくなったことを手伝ってもらいたい
・家での暮らしを続けたい
・動かへんようになったら、どっこいしょの世話になりたい
・今の暮らしに満足している
・望むことは今はない
・命がある限り、今できるいことを続けていきたい
・いつ死んでもええと思うけど、こればっかりはどうしようもない
・子供たちに囲まれて、家がええかな
・入院はしたくないので、先生に家に来てほしい
・体調の現状維持ができたら
・自分の体を自分で管理していきたい
・そうなってみな分からん
・病院はえーことない
・自分の家でしにたいが、あかんかったらどっこいしょや

どっこいしょサービス利用者家族アンケート集計結果
◎アンケート実施期間2021年3月20日～4月20日
◎対象利用者21名・アンケート回収16家族

2　利用者は自身から見てどのような関係にあたりますか

		人	%
1	実父母	14	87.5%
2	義父母	2	12.5%
3	兄弟・姉妹	0	0.0%
4	夫婦	0	0.0%
5	祖父母	0	0.0%
6	その他	0	0.0%

3 利用者と同居ですか？別居ですか？

		人	%
1	同居	7	43.8%
2	別居	9	56.3%

4 どっこいしょの提供するサービスにいて

①☒家族から見て、ご本人は今のサービスに満足していると思いますか？

	人	%
1. 満足していると思う	13	81.3%
2. どちらともいえない	3	18.8%
3. 不満があると思う	0	0.0%
4. わからない	0	0.0%
5. その他(	0	0.0%

◎どのようなことに、満足していますか？/不満がありますか？

・自分の希望に応じて、細かくケアをしていただけること
・お薬の点検や指導を丁寧にしていただけ、スタッフのみなさんが親切です
・皆さんが親切に対応してくしてくれるので喜んでいます
・人との会話・つながり
・心やさしくしてくださいますのでありがたく思っています
・デイサービスの内容に満足していると思います。
・見守りにきてもらえる安心感とs特印の方の人の良さ
・皆さん優しく接してくださっているところ

②ご家族は、今のサービスに満足していますか？

	人	%
1. 大変満足している	8	50.0%
2. まあ満足している	8	50.0%
3. 少し不満がある	0	0.0%
4. 大いに不満がある	0	0.0%
5. その他(	0	0.0%

◎どのようなことに、満足していますか？/不満がありますか？

・母がとても施設に行くことが楽しみで元気で過ごせています。
よく外出させていただけ、とても喜んでいます。体調の管理や訪問診療の
お世話にも力を入れてくださっているので、離れて暮らしている私たち
にも安心です。

・週3回程度お世話になることで、私の時間と心に余裕が持てるように
なりました

・本人の笑顔が増えました。行く日を楽しみにしています。

・本人の生活スタイルに合わせて送迎してもらい満足しています。

・私が仕事をしているので、色々気を使っていただくことありがとく思っている

・何か困ったことがあった時に訪問していただいたり、病院に連れて行って
いただき助かっています

・家での生活ばかりなので、通いに行ってくれたらと思う

・入浴サービスなども利用できるようになってほしい

・利用するようになって、精神的に助けられている

・細かなところまで連絡、報告してくださるところ

・同じ介護程度の話し相手が少なく少し寂しそうです
（入所人数にも限りがあるので仕方ありませんが）

③ご本人はどっこいしょの食事に満足していますか？

	人	%
1. 大変満足している	6	37.5%
2. まあ満足している	7	43.8%
3. 少し不満がある	0	0.0%
4. 大いに不満がある	0	0.0%
5. その他(	2	12.5%

・本人は食事に関して何も言わないのでわかりません

④☒本人は職員に支援されながら、戸外の行きたいところへ出かけていきますか？

	人	%
1. よく出かけている	2	12.5%
2. ときどき出かけている	7	43.8%
3. ほとんど出かけていない	2	12.5%
4. わからない	2	12.5%
5. その他(	3	18.8%

・行きたいところがない。よくわからない

・コロナ禍で戸外の外出はどのようなのか、ちょっとわかりません

⑤☒っこいしょのサービスを受けていて、健康面や医療面、安全面について心配な点はないですか？

	人	%
1. 全くない	5	31.3%
2. あまりない	10	62.5%
3. 少しある	1	6.3%
4. 大いにある	0	0.0%
5. その他(	0	0.0%

◎心配な点はどんなことですか？

・足がとても弱くなっている点。転倒しないか心配です。

・しんどくても自分の方からいうタイプでないのでちょっと心配しています

⑥☒っこいしょで看取りができることを知っていますか？

	人	%
1 知っている	12	75.0%
2 知らない	4	25.0%
3 その他(	0	0.0%

⑦看取りをどこでしたいと考えていますか？【複数回答】

	人	%
1 自宅	5	31.3%
2 病院	3	18.8%
3 どっこいしょ	4	25.0%
4 特別養護老人ホーム等の施設	3	18.8%
5 どうしたら良いかわからない・考えていない	2	12.5%
6 その他(	0	0.0%

・その時の状態によって変わります。家族の色々な状態にもよります。

年齢・経済状態・体調など。

・その時の状況による。

・本人が楽なところ(苦しまないところ)

・体の状態によって考えたいと思います。自宅・病院・どっこいしょ

⑧☒っこいしょの提供するサービス全般でお気づきの点、普段感じていること、改善した方が良いと思うこと等教えてください

・村の行事や用事の時にスタッフの方々も一緒に骨を折ってくださり
入所者を参加させ、母などは超喜んでおります。

・今のままで満足しています

・自宅で過ごすことは良いことだとお考えで、昼間1人で自宅に帰っていますが
トイレが分からないようになっているのに・・・
便もあちらこちらでしています(*_*;
自分では片づけているつもりが荷物が散乱して手が付けられません。
家に帰ることがほんとに良いことなのでしょうか？

・そちらでどんな食物を食べているのか(きざみとか・早さとか)
そちらで何をしているのか知りたい

・今のままでとても感謝しています

5 どっこいしょの職員について

①職員は、ご家族の困っていること、不安、求めていること等の話をよく聞いていますか？

	人	%
1. よく聞いてくれる	9	56.3%
2. まあ聞いてくれる	5	31.3%
3. あまり聞いてくれない	0	0.0%
4. 全く聞いてくれない	0	0.0%
5. その他(	1	6.3%

②どっこいしょでのご本人の様子や健康状態、日中の活動等について、ご家族に報告がありますか？

	人	%
1. よくある	9	56.3%
2. ときどきある	5	31.3%
3. ほとんどない	0	0.0%
4. 全くない	0	0.0%
5. その他(　本人の表情で判断しています	1	6.3%

③ 職員は、ご本人のライフサポートプランをご家族にわかりやすく説明し、一緒に、内容に関する話し合いをしていますか？

	人	%
1. 説明を受け一緒に話し合っている	14	87.5%
2. 説明は受けたが話し合っていない	1	6.3%
3. 説明も話し合いもない	0	0.0%
4. その他(	0	0.0%

④ 職員は、ご本人の思いや願い、要望等をわかってくれていると思いますか？

	人	%
1. よく理解している	9	56.3%
2. まあ理解している	5	31.3%
3. 理解していない	0	0.0%
4. わからない	2	12.5%
5. その他(	0	0.0%

⑤職員は、ご家族やご本人のその時々の状況や要望に合わせて、柔軟な対応をしていますか？

	人	%
1. よく対応してくれる	12	75.0%
2. まあ対応してくれる	4	25.0%
3. あまり対応してくれない	0	0.0%
4. 全く対応してくれない	0	0.0%
5. その他(	0	0.0%

⑥職員の言葉遣いや、態度で気になることがありますか？

	人	%
1. よくある	2	12.5%
2. ときどきある	1	6.3%
3. ほとんどない	6	37.5%
4. 全くない	7	43.8%
5. その他(	0	0.0%

・いつも私がいなくてもフォローしてくれてありがとう。と思っています。

・今のままでよろしくお願いいたします

部署名：通所系支援部

①地域貢献の視点			
重点課題	**【就労Ｂ型】 イベント開催方法の検討 （目標値：３回／年）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・ななつぼし内で地域の方の作成物の販売や取引農家の野菜の直売などを行う体制を検討。要綱を作成し、４者（農家１，個人２，その他１）と合意の上実施した。開始当初より来店される方から好評であり、販売数ものびており、逆に販売している側からもこういった機会を設けられたことに感謝しているといった声を得ている。		
次年度に向けて	・人が集まらない形をベースに展示など地域の方が参画できる内容を検討する。		
重点課題	**【自立訓練】 カリキュラムの充実 （目標値：１回／２ヶ月）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・感染拡大傾向ということもあり、外部の方が来所してもらう機会を設けることはできなかった。しかしながら、オンライン形式でのパラオ体験（外国のパラオとオンラインでつなげ、現地とやり取りする）など、これまでになかった企画を行った。また、外部講師を招くにあたり、要綱を作成。その中で来年度に向けて外部講師との調整を行い、実施に向けた話し合いを行った。		
次年度に向けて	・外部講師として、定期的にかかわってもらう部分と、不定期で必要なものをお願いする部分とに整理し候補等を選定する。		

②財務の視点			
重点課題	**【就労Ｂ型】 就労支援事業費の効果的配分**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・作業補助員の人件費、設備等積立金、工賃変動積立金について、経営推進課と調整し就労支援事業収入から配分できるよう年度当初より収支を管理し行った。		
次年度に向けて	・工賃額を落とさないように、収益を毎月見ながら、配分を見直していく。		

項目（抜粋）	令和３年度（概算）	昨年度増減
収入①（委託作業）	5,864,858	−92,679
収入②（飲食）	4,635,530	+662,990
支出①（利用者工賃）	5,880,177	−54,461
支出②（人件費）	848,960	+218,768
支出③（設備等積立）	420,000	+420,000
支出④（工賃変動積立）	350,000	+350,000

重点課題	**【自立訓練】 外部に向けた成果発表の機会 （目標値：１回／年）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・人数等を考慮し、発表会は外部施設を利用した。招待は感染状況を踏まえ、これまで通り相談支援や関係者のみとした。		
次年度に向けて	・利用者の同意が得られる動画等の活用（SNS など）など、見に来ることが困難な方や、今後関わってもらいたい関係者に対しての PR に使えるよう検討する。		
重点課題	**【自立訓練】 イベントへの招待 （目標値：夏期・冬期開催）**	**事業判定**	**見直し**
実施状況	・感染状況を踏まえ、多く人を集めるような企画については実施せず、見学・体験会を夏季と冬季に実施した。		
次年度に向けて	・高校から次の進路としてはなかなか認識しにくさもあり、現在の利用希望及び見学者は来所が安定せず２年間では期間が足りないような対象も多く、今後の事業ターゲットの獲得に課題や検討すべき点が多い。 ・参加しやすさも踏まえ、夏季・冬季ではなく、７～１２月の間、月に一度 OPEN 教室開催を検討する。		

③顧客の視点			
重点課題	**【就労Ｂ型】 支援学校・企業との関係構築**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・年度内に４名（３年生２名、２年生２名）の実習を受け入れた。卒業後の候補として最後まで悩まれた結果として他事業所を選択されたが、事業所内や施設外など生徒の特性と希望を踏まえた中で、事前に作業場を調整し、実習にあたるようにした。また振り返りやその後の進路担当教諭と話す機会においても、卒業生等の情報を共有しながら関係の構築を図った。		
次年度に向けて	・学校の持つ希望やイメージと、事業所が考える特性等を、より擦り合わせられるよう情報の共有を行っていく。		
重点課題	**【就労Ｂ型】 平均工賃の維持 （目標値：30,000 円以上）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・令和３年度平均工賃額は 31,195 円（前年度は 31,185 円）。コロナによる作業量の減少が自動車部品関係、特に菓子製造業では顕著であり、完全停止してしまう月もあったが、他の企業をあたり不定期ながら作業を確保し対応した。飲食事業においても収益を拡大させるため、固定客の獲得、材料費の見直し、価格改訂等を行った。		
次年度に向けて	・状況によって、新たな企業や作業の導入を検討する。		

重点課題	**【自立訓練】 個別訓練計画の導入**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・２回／月の振り返りの継続実施と、１回／月の訓練計画の評価・見直しを実施した。個別支援計画と連動させながら、定期的に振り返ることができた。		
次年度に向けて	・評価や計画について、利用者を含めて次に何に取り組むか、そのためにどういった支援が必要か共有できるようなものにブラッシュアップしていく。		
重点課題	**【就労Ｂ型】 パンフレットの改訂 （目標値：１回／年）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・広報委員会を４回／年実施。これまでのパンフレットから、自立訓練事業と同じサイズへと変更し、記載内容を見直した。その内容をもって業者と調整している。		
次年度に向けて	・業者と調整し最終版を仕上げる。		
重点課題	**【自立訓練】 パンフレットの改訂 （目標値：１回／年）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・広報委員会を４回／年実施。これまでのパンフレットから、実際の事業実施の風景等に画像を変更、合わせて記載内容などを見直した。その内容をもって業者と調整している。		
次年度に向けて	・業者と調整し最終版を仕上げる。		

④業務プロセスの視点			
重点課題	**【就労Ｂ型】 就労訓練プログラムの作成**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・障害者の就労支援に関する情報や、アセスメントに関する研修に参加し必要な情報を収集しつつ、実際に卒業生を支援する中で必要となるプログラムや支援を検討。来年度以降作成していくための情報の整理等を行った。		
次年度に向けて	・参加した研修や集めた情報をもとに実践を踏まえながら、書面化していく。		
重点課題	**【自立訓練】 学年制開始に合わせた見直し （目標値：素案作成）**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・今年度は利用者数等の兼ね合いにより、全員合同で実施する形となったため実施していない。		
次年度に向けて	・利用者数に応じた班分けを行う。		

<table>
<tr><th colspan="4">⑤学習と成長の視点</th></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>【就労Ｂ型】
ジョブコーチ的役割を担える人材の育成</td><td>事業判定</td><td>継続</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="3">・コロナの影響で研修会が中止になり、必要な研修の参加ができていない。その他ではアセスメント等の研修を受講した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けて</td><td colspan="3">・予定していた研修の代替を検討する。</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>【就労Ｂ型】
内部研修の開催</td><td>事業判定</td><td>継続</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="3">・以下の研修を実施した。
<table><tr><th>年月</th><th>研修名</th></tr><tr><td>R03.04</td><td>個別支援計画について</td></tr><tr><td>R03.06</td><td>虐待防止研修</td></tr><tr><td>R03.07</td><td>ケース検討会（就労継続支援Ｂ型）</td></tr><tr><td>R03.07</td><td>ケース検討会（自立訓練事業）</td></tr><tr><td>R03.09</td><td>感染症対策研修</td></tr><tr><td>R03.10</td><td>障害の理解</td></tr><tr><td>R04.01</td><td>災害対策研修</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>次年度に向けて</td><td colspan="3">・参加した外部研修を事業所内の他スタッフにフィードバックの機会が、委員会主導の研修が増えたことで減ってしまっているため、実施方法等再検討する。</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>【自立訓練】
カリキュラム実施におけるスタッフによる差をなくす</td><td>事業判定</td><td>継続</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="3">・井澤先生によるコンサルタントについては、コロナにより予定していた回数より１度少なくなってしまった。２度目の中止が検討された際にはオンラインで開催するなどして対応した。また発達を含めた障害の理解やアセスメントなどについての研修を実査、参加した。</td></tr>
<tr><td>次年度に向けて</td><td colspan="3">・今後も必要な研修を企画・参加していく。</td></tr>
</table>

部署名：共同生活援助部

①地域貢献の視点			
重点課題	**加西市を中心とした重度者や医療的ケアが必要な方の利用ニーズに応えられる事業所作り**	**事業判定**	**継続**
実施状況	【大空】 ・８月２日に加西市の入居者１名が入居し日中は輝きを利用(継続) 【輝き】 ・８月から加西市内の登録者１名が定期利用開始。９月から加西市の新規利用者１名が定期利用開始、登録者１名が定期利用開始。１０月から加東市の新規利用者１名が定期利用を開始。		
次年度に向けて	・相談支援事業所と連携し地域の利用ニーズを確認する。利用の優先度が高い方の受け入れを行っていく。		

②財務の視点			
重点課題	**稼働率の向上(輝き)**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・利用者及び家族や相談支援事業所への働きかけにより、輝き通所者は新規２名、登録者２名の利用回数増となった。利用者(大空入居者)の入院や退所、コロナウイルスによる通所者利用中止、輝き通所利用者の入院等により令和４年１月以降利用率が低下し、年間平均利用率は 82.0%、平均利用者数は 16.4 人となった。		
次年度に向けて	・輝きを利用する大空入居者を確保する。また支援体制を踏まえ、現通所者の回数増を検討実施する。入居者の疾病予防に努める。		
重点課題	**送迎実施**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・通所利用者増に伴い、送迎コースを迎え６コース、送り３コースを調整した。		
次年度に向けて	・送迎対応者の休職により、送迎対応者の見直しが必要となった。また道幅の狭い道路を通過する送迎コースがあり、安全運行に課題が残った。 ・新規車両(軽)を活用し、より安全に送迎業務を行う。		
重点課題	**定員数維持(大空)**	**事業判定**	**継続**
実施状況	・高齢や重度の利用者に対し継続的な疾病予防に努めた。６月下旬に１名が退所し、８月上旬に新規入居者が入居した。９月末に１名、３月下旬に１名が退所し空床２名となっている。年間平均利用率 90.6%、平均利用者数 12.6 人。		
次年度に向けて	・職員の退職や休職による減員の為、支援体制が整わず満床を維持出来ない時期があった。４月以降、支援体制の状況を踏まえ早期に新規入居者を補充する。		

重点課題	定員数維持（なごみ）	事業判定	継続
実施状況	・年間を通して、満床を維持し年間平均利用率 99.8%、平均利用者数４人。		
次年度に向けて	・入居者の疾病予防に努め、利用率を維持する。		
重点課題	定員数維持（くつろぎ）	事業判定	継続
実施状況	・東高室自治会と話し合いや入居者選定会議を重ね、令和４年１月１０日に事業開始した。現在対人面やその他のトラブルはなく、一人ひとりの生活状況に合わせて事業を行っている。入居者の生活リズムも整ってきており、世話人の支援業務も定着しつつある。		
次年度に向けて	・現入居者が３名、入居者の意向により週末等は自宅に帰宅している為、利用率は開所３ヶ月で 46.8%となった。相談支援事業所と連携し４人目の入居者募集、週末の開所に、向けて検討する。		

③顧客の視点			
重点課題	人生の最終段階を考える	事業判定	継続
実施状況	・令和３年６月下旬から７月上旬にかけて、１名の方の看取り支援を行った。 ・令和３年１２月から令和４年３月下旬にかけて、１名の方の看取り支援を行った。 ・看取り支援を通して、大空輝き職員の一体感が改めて生まれた。また支援内容の振り返りを全職員で行うことにより、職員一人ひとりの看取り支援に対する意見や姿勢を確認でき、今後の検討内容が挙がった。		
次年度に向けて	・支援実施後に支援内容の検証を行うことで、看取り支援の質を向上させると共に、今後の大空輝きの看取り支援の在り方を検討し、実践していく。		
重点課題	日中プログラムの充実（機能訓練を含む）	事業判定	継続
実施状況	・四季の移り変わりを感じられるイベントや、環境整備、植物等の栽培、創作活動、音楽療法、リハビリ等を行った。また入浴はリラックス効果を上げる為、入浴剤や BGM を活用した。 ・コロナウイルスの感染拡大の為、密を避けた屋外への外出に留まった。 ・満足度調査は様式の検討に留まり未実施となった。		
次年度に向けて	・個々のニーズに沿った活動メニューの実施を継続しつつ、全体での新規プログラムを試行し定着させていく。また満足度調査の結果を踏まえた事業運営を行う。 ・コロナウイルスの感染予防を踏まえた外出を検討、実施する。		

重点課題	事業所の PR	事業判定	継続
実施状況	・事業所の広報誌を７月、１１月に発行した。 ・SNS による情報発信は、他事業所から情報収集し必要備品を購入した。		
次年度に向けて	・SNS を中心とした事業所の情報発信を行う。		
重点課題	高齢重度障害者の支援に特化したサービスの充実	事業判定	継続
実施状況	・障害の重い新規利用者の受け入れを通して、支援内容、体制を調整した。また高齢による身体機能や嚥下機能の低下に応じて、個別対応を適時実施した。 ・職員の介助動作に統一化が図られていない、介助動作に負担が強い内容について介護実技研修を行った。介助を補助するボードの活用方法や介助方法が統一された。		
次年度に向けて	・上記以外に介助動作等の統一がされていない対応がある為、内容の検証を行う。 ・個々のニーズを踏まえ、利用者や職員にとって安全で安心な支援、介助を行う。		

④業務プロセスの視点			
重点課題	業務の標準化	事業判定	継続
実施状況	・投薬、PHS の使用、警報発令時の送迎、夜間・早朝業務、家族からの金銭の預かり、コロナ感染対策等のマニュアルを見直した。		
次年度に向けて	・各委員会を中心にマニュアル検討を行い、サービス管理責任者等で取りまとめする。防災関連、事故予防(ヒヤリハット)、個別支援、看取り支援、SNS による情報発信方法等の見直しや作成を行う。		
重点課題	事業所の目的の共通認識	事業判定	継続
実施状況	・新規利用者は利用ニーズの高い障害の重い方の受け入れを行った。サービス管理責任者を中心に会議を通して事業所の目的について確認をした。		
次年度に向けて	・利用者や家族、職員間のコミュニケーションを密にすることで事業所の目的に対する理解を醸成させる。		
重点課題	会議の活性化	事業判定	継続
実施状況	・虐待防止委員会：３回　・看取り支援検討委員会：６回 ・広報委員会：４回　・日中活動検討：３回 ・医療に関すること：６回　・機能訓練、安全な介護：７回 ・物品：１回　・環境：１回 ・事故防止、防災、マニュアル整備委員会：８回		
次年度に向けて	・会議を設定した日に欠員があり未実施、メンバー全員での会議が難しい等の課題が残った。今後は設定した日以外でも担当者が複数出勤している日に適時、会議を行う。		

重点課題	事故防止とリスクマネージメントの確立	事業判定	継続
実施状況	・ヒヤリハット記録の提出や事故防止対策を随時実施した。朝礼時にヒヤリハットについて共有した。 ・災害時の自治会への協力依頼については、自治会による防災訓練が行われていないことや自治会への依頼内容を具体化できず実施できなかった。		
次年度に向けて	・介助時の事故回数は前年度と比較すると減少した(転落１件)が、公用車の接触事故(駐車時)が３件発生した。職員研修にて安全運転に関する項目を実施する。 ・災害時の鶉の上町自治会への協力依頼については、事業所内部で具体的な内容を検討し、区長に相談する。		
重点課題	的確な記録を作成する	事業判定	継続
実施状況	・「記録の目的」についての内部研修を実施した。		
次年度に向けて	・「ほのぼの」に活用していない項目がある為、使用方法について見直す。 ・記録に関する内部研修を継続して実施する。		

⑤学習と成長の視点			
重点課題	職員のスキルアップ(介護力・支援力・倫理観を高める)	事業判定	継続
実施状況	・虐待防止、ゆたか会の理念・倫理、介護技術、看取り支援、記録の目的等についての研修を実施した。		
次年度に向けて	・内部研修の講師役職員に偏りがある為、講師役をフォローし多くの職員が講師役を担えるようにする。		
重点課題	虐待防止への取り組み	事業判定	継続
実施状況	・研修(５月)、虐待セルフチェック(５月、９月、２月)を実施した。セルフチェックの結果は支援会議で職員にフィードバックした。セルフチェックでは回数を重ねると自由記述の意見が多く出るようになってきた。		
次年度に向けて	・セルフチェックリストは実施、結果の検証、回答者へのフィードバックの流れが遅れていることがある為、各工程の検証と一連の流れがスムーズに進むように改善する。 ・ゆたか会本会の虐待セルフチェックリストを活用する。事業所内の虐待防止委員会を定期的に開催し、虐待防止に努める。		